

February 2024  
NHK Symphony Orchestra, Tokyo



## 終演時のカーテンコールを撮影していただけます

スマートフォンやコンパクトデジタルカメラなどで撮影していただけます。  
SNSでシェアする際には、ハッシュタグ「#N響」【#nhkso】の追加をぜひお願いいたします。  
ほかのお客様の映り込みにはご注意ください。

※撮影はご自席からとし、手を高く上げる、望遠レンズや三脚を使用するなど、周囲のお客様の迷惑となるような行為はお控えください

## You are free to take stage photos during the curtain calls at the end of the performance.

You can take photos with your smartphone or compact digital camera.  
When you share the photos on social media, please add #nhkso.  
Be careful to avoid accidentally including any audience members in your photos.

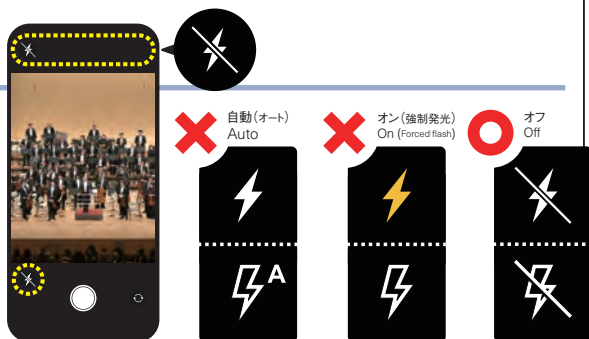


### 「フラッシュ」オフ設定確認のお願い

撮影前に、スマートフォンのフラッシュ設定が「オフ」になっているかご確認をお願いいたします。

### Set your device to "flash off mode."

Make sure that your smartphone is on "flash off mode" before taking photos.



スマートフォンのフラッシュをオフにする方法 | 多くの機種では、カメラ撮影の画面の四隅のどこかに、フラッシュの状態を示す⚡(カメラマーク)を含むアイコンが表示されています。これをタップすることで、「オン(強制発光)」「自動(オート)」「オフ」に変更できます。

## インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力をお願いいたします。

詳しくは58ページをご覧ください



こちらのQRからアンケートページへアクセスできます

<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

### お客様へのお願い

Please kindly keep in mind the following:



公演中は携帯電話、時計のアラーム等は必ずお切りください  
Be sure to set your phone to silent mode and turn off your watch alarm etc. during the performance.



私語、パンフレットをめくる音など、物音が出ないようにご注意ください  
Please refrain from making any noise, such as engaging in private conversations or turning booklet pages.



発熱等の体調不良時にはご来場をお控えください  
Please refrain from visiting the concert hall if you have a fever or feel unwell.



演奏は最後の余韻までお楽しみください  
Please wait until the performance has completed before clapping hands or shouting "Bravo."



演奏中の入退場はご遠慮ください  
Please refrain from entering or leaving your seat during the performance.



適切な手指の消毒、咳エチケットにご協力ください  
Your proper hand disinfection and cough etiquette are highly appreciated.



場内での録画、録音、写真撮影は固くお断りいたします(終演時のカーテンコールをのぞく)  
Video or audio recordings, and still photography at the auditorium are strictly prohibited during the performance. (Except at the time of the curtain calls at the end of the concert.)



補聴器が正しく装着されているかご確認ください  
Please make sure that your hearing aids are properly fitted.



「ブラボー」等のお声掛けをされる際は、マスクの着用にご協力をお願いいたします  
Please wear a face mask when shouting "Bravo."

# PHILHARMONY

CONTENTS  
FEBRUARY 2024

# 2

- 3 [公演プログラム] **Aプログラム**
- 21 [公演プログラム] **Bプログラム**
- 29 [公演プログラム] **Cプログラム**
- 34 [シリーズ] **N響百年史** | 第44回 | 「大改組」終幕——近衛時代の終焉 片山杜秀
- 39 2024年4月定期公演のプログラムについて——公演企画担当者から
- 41 チケットのご案内
- 42 2023–24定期公演プログラム
- 43 2024–25定期公演プログラム
- 47 特別公演／各地の公演
- 52 特別支援・特別協力・賛助会員
- 56 NHK交響楽団メンバー
- 57 曲目解説執筆者・歌詞対訳者
- 58 みなさまの声をお聞かせください！
- 59 NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO Members

## Artist Profiles & Program Notes

- 60 Program A
- 64 Program B
- 69 Program C
- 72 The Subscription Concerts Program 2023–24
- 73 The Subscription Concerts Program 2024–25
- 76 N響関連のお知らせ
- 77 N響の社会貢献
- 78 役員等・団友

# Special Thanks




## NHK SYMPHONY ORCHESTRA T O K Y O

特別支援

岩谷産業株式会社

 三菱地所株式会社

 みずほ銀行

公益財団法人 渋谷育英会

With Special Support of

Iwatani Corporation

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

Mizuho Bank, Ltd.

Shibuya Scholarship Foundation

NHK交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。

2020年2月、ウィーン・コンツェルトハウスにて  
©Lukas Beck

PROGRAM

A

第2004回

NHKホール

2/3 土 6:00pm2/4 日 2:00pm

指揮

井上道義

バス

アレクセイ・ティホミーロフ\*※

男声合唱

オルフェイ・ドレンガル男声合唱団(合唱指揮:セシリア・リュティンゲル)\*

コンサートマスター

郷古 廉

※当初発表の出演者から変更となりました。

ヨハン・シュトラウス二世  
ポルカ「クラップフェンの森で」  
作品336[5']

ショスタコーヴィチ  
舞台管弦楽のための組曲 第1番  
—「行進曲」「リリック・ワルツ」  
「小さなポルカ」「ワルツ第2番」[13']

— 休憩 (20分) —

ショスタコーヴィチ  
交響曲 第13番 変ロ短調 作品113  
「バビ・ヤール」\*[59']

- I バビ・ヤール
- II ユーモア
- III 商店で
- IV 恐怖
- V 立身出世

※PDF版では権利上の都合により、ショスタコーヴィチ《交響曲第13番「バビ・ヤール」》歌詞対訳の掲載を見合わせていただきます。

※演奏時間は目安です。

### インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ご協力をお願いいたします。

詳しくは58ページをご覧ください



こちらのQRから  
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

## Artist Profiles

## 井上道義 (指揮)



Mitsuru Inoue

2024年12月末で「引退する」と宣言した1946年生まれの名指揮者、井上道義。2016年11月、38年ぶりにNHK交響楽団の定期公演へ招かれて披露したのはオール・ショスタコーヴィチ・プログラムだった。そしてグラスとショスタコーヴィチでセンセーションを巻き起こしたのは2019年10月のこと。コロナ禍での2020年12月公演ではショスタコーヴィチ《交響曲第1番》を指揮し、2022年11月定期公演も同作曲家の《交響曲第10番》で成功を収め、今回、2024年2月の定期では《舞台管弦楽のための組曲第1番》と《交響曲第13番「バビ・ヤール」》に挑む。井上は世界が東西冷戦に支配された第2次世界大戦後に生まれ育ち、日米両国にルーツを持つ。社会主義体制の旧ソ連を生き抜いた芸術家ショスタコーヴィチの苦悩に自身を重ね、「ショスタコーヴィチは僕だ」と公言してはばからない傾倒がN響の楽員1人1人に浸透、極めて共感度の高い演奏を生んできた。冒頭に置かれたワルツ王ヨハン・シュトラウスII世の《ポルカ「クラップフェンの森で」》が異彩を放つが、ロシア帝国に招かれバヴロフスク滞在中に作曲し、元は《バヴロフスクの森で》という題名だった事実や、ショスタコーヴィチの組曲の3曲目が〈小さなポルカ〉である関連をふまえた選曲だろう。若い頃ダンサーを目指した片鱗をうかがわせる井上の華麗な指揮ぶりも注目だ。

[池田卓夫／音楽ジャーナリスト]

## アレクセイ・ティホミーロフ (バス)



Alexey Timofeyev

ロシアのタタールスタン共和国の首都カザン出身のアレクセイ・ティホミーロフは、2005年にモスクワのヘリコン・オペラのソリストとなり、以後ボリショイ劇場、ベルリン国立歌劇場、ハンブルク国立歌劇場などヨーロッパの主要な歌劇場に出演を重ねてきたバス歌手。《ボリス・ゴドノフ》タイトルロールや《ムツェンスクのマクベス夫人》ボリスなどのロシアものはもちろんのこと、《ラインの黄金》ファゾルトや《セビリアの理髪師》バジリーオなど、多彩なレパートリーを持つ。日本には、2019年10月に新国立劇場で上演された歌劇《エフゲーニ・オネーギン》のグレーミン公爵で登場し、深く柔らかかみのある歌声で大きな存在感を示した。

ショスタコーヴィチ《交響曲第13番「バビ・ヤール」》は2018年9月にムーティ指揮シカゴ交響楽団と演奏。さらに2023年9月にはクルレンツィス指揮ムジカエテルナおよび南西ドイツ放送交響楽団とも共演して絶賛を博している。初共演となるN響とはどんな世界を描き出すのか、期待が高まる。

## オルフェイ・ドレンガル男声合唱団



「オルフェウスのしもべたち」という名前を持つオルフェイ・ドレンガル男声合唱団は、1853年、スウェーデンの首都ストックホルムの北方70キロメートルに位置するウプサラで設立された。疫病によって孤立状態に陥ったウプサラの町を勇気づけるために、北欧最古の大学であるウプサラ大学の学生たちが合唱曲を歌ったのが始まりとされている。スウェーデンを代表する作曲家アルヴェーンや、「合唱の王様」と称された

エリック・エリクソンが指揮者を務め、特にエリクソンとの関係は1951年から1991年まで40年間に及び、この間に団の実力は飛躍的に向上し、世界最高峰のア・カペラ合唱団といわれるようになった。2008年からはセシリア・リュディンゲルが指揮をとっている。

90人ほどの男声による研ぎ澄まされたハーモニーは圧倒的な感動をもたらす。ルネサンスのポリフォニーから現代音楽まで幅広いレパートリーを持つ彼らだからこそ、今回のショスタコーヴィチ作品でも合唱の底力を感じさせてくれるにちがいない。

[室田尚子／音楽評論家]

### Program Notes | 千葉 潤

38年ぶりのN響定期登場となった2016年のオール・ショスタコーヴィチ・プログラムでの《交響曲第12番》以来、2019年の《第11番》、2022年の《第10番》と、立て続けにこの作曲家の真価を証明してきた井上とN響のショスタコーヴィチ・シリーズも、今年でいよいよラストランとなる。ショスタコーヴィチの多面性を熟知した絶妙のプログラムで、マエストロ井上の総決算となる名演を期待したい。

### ヨハン・シュトラウスII世

## ポルカ「クラップフェンの森で」作品336

19世紀ヨーロッパ社交界の寵児となったヨハン・シュトラウスII世(1825~1899)。そのワルツやポルカのステップは、近代化が進むブルジョワ社会の新しい娯楽として熱狂的に受け入れられたが、事情は帝政ロシアでも変わらない。1838年、首都ペテルブルクと皇帝の離宮が立つ「皇帝の村」<sup>ツァールスコエ・セロー</sup>を結ぶ鉄道が開通。その終着駅には西欧風な大庭園と並んで「パヴロフスク駅」と名付けられた音楽ホールが建設され、避暑に訪れた紳士淑女に贅沢な憩い<sup>ぜいたく</sup>を提供した。増収を狙う鉄道会社は、“ワルツ王”シュトラウスと破格の契約を結び、1856年から1865年までの毎夏5か月の間、シュトラウス一行はこのホールの座付き楽団として人々を魅了しつづけた。

《クラップフェンの森で》は、ロシアでの長い契約が終了したあと、久しぶりに当地に

客演した際に作曲した《バヴロフスクの森で》(1869)を、翌年ウィーンの聴衆向けに改題したもの。比較的中庸なテンポの“フランス風ポルカ”に属し、鳥笛の愛嬌ある表情と相まって人気の高い作品である。

|      |  |
|------|--|
| 作曲年代 | 1869年  |
| 初演   | 1869年9月6日(旧ロシア暦8月25日)、作曲者自身による指揮、ロシア・バヴロフスクにて  |
| 楽器編成 | フルート1、ピッコロ1、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ2、大太鼓、シンバル、カッコウの鳴き声の笛、鳥笛、小太鼓、弦楽 |

## シヨスタコーヴィチ

### 舞台管弦楽のための組曲 第1番 —「行進曲」「リリック・ワルツ」「小さなポルカ」 「ワルツ第2番」

トム・クルーズとニコール・キッドマンが倦怠期<sup>けんたいき</sup>の夫婦を演じた映画『アイズ・ワイド・シャット』(1999)でこの組曲の〈ワルツ第2番〉が印象的に使われて以来、ドミートリ・シヨスタコーヴィチ(1906~1975)の軽音楽が注目を集めている。従来の悲劇的で重苦しいイメージとは対照的ながら、実はこれもソ連ならではの産物である。

1930年代のソ連では、前衛芸術や商業文化が西側の退廃文化として排除される一方、国内のスターを多数擁したソ連映画やバラエティ、ジャズ等の娯楽は国の管理下で独自に発展し、プロコフィエフやシヨスタコーヴィチのような作曲家が大衆音楽の創作にも積極的に取り組んだ。行進曲やワルツ等の19世紀的ジャンルに、ロシアらしい哀感漂う旋律や現代的な諧謔味<sup>かいぎやくみ</sup>を交えた魅力的な小品の数々は、ソ連文化の独自性を改めて見直すきっかけを与えている。

《舞台管弦楽のための組曲》はこれまで誤って《ジャズ組曲 第2番》と混同されてきたが、後者が1938年に作曲された3楽章の作品であるのに対し、《舞台管弦楽のための組曲》は、1930~50年代に書かれたバレエや映画音楽からの抜粋であり、サクソフォンやアコーディオンが舞台音楽らしい興味を添える。

|      |  |
|------|--|
| 作曲年代 | [行進曲]1940年(映画「コルジシキナの冒険」) [リリック・ワルツ]不明 [小さなポルカ]不明<br>[ワルツ第2番]1955~1956年(映画「第1梯団」)  |
| 初演   | 不明。イギリス初演は1988年12月1日、ムスティスラフ・ロストロポーヴィチ指揮、ロンドン交響楽団、ロンドンにて   |
| 楽器編成 | フルート1、ピッコロ1、オーボエ1、クラリネット2、ファゴット1、ホルン3、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、アルト・サクソフォン2、テナー・サクソフォン2、ギター、アコーディオン、ティンパニ1、ハーブ1、ピアノ1、チェレスタまたはピアノ、大太鼓、シンバル、ハイハット・シンバル、小太鼓、トライアングル、グロッケンシュピール、シロフォン、弦楽 |



## 交響曲 第13番 変口短調 作品113「バビ・ヤール」

3 &amp; 4. FEB. 2024

1941年9月末、ウクライナ・キウ郊外の溪谷バビ・ヤールでは、ナチスにより2日間で3万4千人ものユダヤ人が虐殺された。戦後もずっと隠蔽されてきたこの事件を取り上げつつ、ロシアに隠然と存在する反ユダヤ主義を告発したエフゲーニ・エフトゥシェンコ（1932～2017）の詩『バビ・ヤール』の発表（1961）は、脱スターリン化が進んだ「雪どけ」期の表現の自由を象徴する出来事となり、折に触れてユダヤに<sup>ちな</sup>因んだ作品を発表してきたシヨスタコーヴィチの心をも強く揺さぶった。

当初、彼はこの詩に基づく声楽入りの交響詩を作曲したが、さらに同詩人の4篇の詩を加え（「恐怖」はこの曲のための書下ろし）、堂々とした5楽章の交響曲として完成する。社会的・人間的正義を臆せず語る若い詩人の言葉は、スターリニズムを生き延びた作曲家の屈折した心に、改めて人間の尊厳を思い起こさせた。作曲途中だったシヨスタコーヴィチは友人グリークマンに宛ててこう書いている。「私はこの作品が完全に認められるとは考えていません。でもこれを書かないわけにはいかないのです」。

行き過ぎた自由化への反動が強まるなか、数々の妨害工作を乗り越えて実現した初演から数日後、当局の圧力に屈したエフトゥシェンコは歌詞の書き換えを余儀なくされる。変更後はバビ・ヤールの犠牲者としてユダヤ人のほかにロシア人とウクライナ人が加えられ、ファシズムの行く手を阻んだロシアの武勲が称えられる。この曲の将来を案じた指揮者コンドラシンに説得され、シヨスタコーヴィチは改訂版の歌詞での演奏を許したが、もとの音符は一切変更しなかった（今回はオリジナルの歌詞で演奏する）。

全体は交響曲に準じた5つの楽章からなり、第3楽章から第5楽章は切れ目なく演奏されるほか、第1楽章で提示される循環主題が全体を統一する。リアリズムと風刺に徹したシヨスタコーヴィチの筆致は<sup>き</sup>冴えわたり、ロシア語の抑揚を重んじた歌の行間をオーケストラが瞬時に注釈していく。ぜひとも事前に対訳を一読されたい。

**第1楽章〈バビ・ヤール〉** アダージョ、変口短調、4分の4拍子。弔鐘のようなベルによって開始され、低音の主題にのって弱音器付きのトランペットがこの曲の循環主題を提示する。これらをロンドとして古代から現代までのユダヤ人迫害のエピソードが赤裸々に描かれていく。

**第2楽章〈ユーモア〉** アレグレット、ハ長調、4分の4拍子。スケルツォ楽章であり、冒頭の重厚なハ長調の和音と調子はずれのすばやい楽句の対比は、ムソルグスキーの有名な《のみ之歌》を彷彿させる。中間部は作曲者自身の歌曲《処刑前のマクファーソン》（1942）の引用だが、交響曲での主人公は絞首台を前に飛び跳ねて踊りだし、最後は圧倒的なユーモア讃歌へと成長する。

**第3楽章〈商店で〉** アダージョ、ホ短調、4分の4拍子。無言でロシアを支える女性たち

への讃歌であり、“優しい女神たち”を欺けば“怒りの日”が鳴り響く。この楽章とつづく第4楽章は緩徐楽章に相当し、音楽的にも統合される。

**第4楽章〈恐怖〉**ラルゴ、嬰ト短調、4分の4拍子。スターリニズムの恐怖政治を描く前半が無調で表現されるのに対し、新しい時代への畏怖を描く後半では徐々に調性が輝き始める。切れ目なく第5楽章に続く。

**第5楽章〈立身出世〉**アレグレット、変ロ長調、4分の3拍子。ショスタコーヴィチの《交響曲第8番》を彷彿させるパストラレ風のフィナーレ。独唱が「呪った者は忘れられ」と歌えば、作曲者の名前を暗示する音程にのせて合唱が応える——「呪われた者は記憶される」と。循環主題に基づく大規模なフガートのあと、音楽は静けさを取り戻し、最後は第1楽章冒頭と同じベルの音が悲劇の叙事詩に幕を下ろす。

|             |   |
|-------------|---|
| <b>作曲年代</b> | 1962年(第1楽章総譜完成は4月21日、第5楽章総譜完成は7月20日)  |
| <b>初演</b>   | 1962年12月18日、キリル・コンドラシン指揮、モスクワ・フィルハーモニー交響楽団、ヴァイリイ・グロマツキイのバス独唱、ロシア共和国合唱団、国立グネーシン音楽教育大学合唱団の男声合唱、モスクワにて   |
| <b>楽器編成</b> | フルート2、ピッコロ1、オーボエ3(イングリッシュ・ホルン1)、クラリネット3(Esクラリネット1、バス・クラリネット1)、ファゴット3(コントラファゴット1)、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、ハーブ3、チェレスタ(ピアノ)、シンバル、ムチ、小太鼓、タンブリン、カスタネット、ウッドブロック、トライアングル、タムタム、シロフォン、大太鼓、チャイム、グロッケンシュピール、弦楽、バス独唱、男声合唱 |

旧ソビエト連邦の作曲家。共産党の一党独裁体制のもとでは自由な創作活動ができず、当局の理念に応じた作品を書かねばならない時代にあつてなお、ショスタコーヴィチは自らの芸術家としての信念と折り合える作品を書き続けた。権力者、聴衆、自分自身……、立場や思惑の違う人々が納得するテーマや作品性を追求した楽曲は、おのずと多義的で、さまざまな聴き方が可能な複雑さを内包している。

Dmitry Shostakovich (1906–1975)

# ドミートリ・ ショスタコーヴィチ

重なる音の奥にあふれる情熱

A 2024, FEBRUARY  
[第2004回]

ショスタコーヴィチの分厚い眼鏡に映るのは  
多くの血が流れたバビ・ヤールの風景  
イラストレーション ©IKE

## バビ・ヤールの悲劇

バビ・ヤールは、現在のウクライナの首都キーウ近郊にある谷。第2次世界大戦中、当時はソ連だったこの地に侵攻・占拠したドイツ軍が、2日間で3万人以上という想像を絶するユダヤ人の大量虐殺を行ない、その後も10万人以上のユダヤ人がバビ・ヤールの地に葬られた。

B

第2006回

サントリーホール

2/14 水 7:00pm

2/15 木 7:00pm

|           |               |
|-----------|---------------|
| 指揮        | パブロ・エラス・カサド   |
| ヴァイオリン    | アウグスティン・ハーデリヒ |
| ソプラノ      | 吉田珠代*         |
| コンサートマスター | 郷古 廉          |

## ラヴェル

## スペイン狂詩曲 [15']

- I 夜への前奏曲
- II マラゲーニャ
- III ハバネラ
- IV 祭り

## プロコフィエフ

ヴァイオリン協奏曲 第2番 ト短調  
作品63 [26']

- I アレグロ・モデラート
- II アンダンテ・アッサイ
- III アレグロ、ベン・マルカート

— 休憩 (20分) —

## ファリャ

## バレエ音楽「三角帽子」(全曲)\* [38']

## 序奏

[第1部]

- I 昼下がりに
- II 粉ひき女の踊り(ファンダンゴ)
- III ぶどう

[第2部]

- I 近所の人たちの踊り(セグディーリャ)
- II 粉屋の踊り(ファルーカ)
- III 代官の踊り
- IV 終幕の踊り(ホタ)

※演奏時間は目安です。

## インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは58ページをご覧ください



こちらのQRから

アンケートページへアクセスできます


<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

## パブロ・エラス・カサド(指揮)



1977年、スペイン生まれ。2009年にサントリー・サマーフェスティバルで3群のオーケストラのための《グルッペン》(シュトゥックハウゼン作曲)の指揮者のひとりとして来日(N響との初共演)、また2011年には細川俊夫の《オペラ「松風」》をモネ劇場で世界初演したこともあって、日本では当初、現代物を得意とする指揮者として受け止められたように思う。だが、カサドはそのキャリアにおいてロマン派から大管弦楽曲、オペラまで幅広いレパートリーを開拓し続けてきた。ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団を含む世界各地のオケに客演するほか、フライブルク・バロック・オーケストラなど古楽団体との共演も多く、このジャンルにも深い造詣を持つ。首席客演指揮者を務めるマドリッド・レアル劇場をはじめ、スカラ座、ウィーン国立歌劇場といった各地の名門歌劇場にもたびたび登場、2023年夏には《パルシファル》を振ってバイロイト音楽祭にもデビューし、世界の指揮者シーンにおいて頭ひとつ抜けた存在感を示しつつある。

細部にまで目配りを怠らない緻密な音作りながら、音楽は生気を帯びてよく弾み、オケをクリアかつフレッシュに鳴らす。近年はN響への登壇機会も増え、多彩な選曲でその広範な知見と解釈を披露している。今回の来日ではいよいよ母国の作曲家ファリャの大作をメインに、ラヴェルの《スペイン狂詩曲》などを加えた本領発揮のプログラムを聴かせてくれる。

[江藤光紀／音楽評論家]

## アウグスティン・ハーデリヒ(ヴァイオリン)



1984年、ドイツ人の両親のもとイタリアで生まれ、マスカーニ音楽院とジュリアード音楽院で学ぶ。1999年、全身の60%にも及ぶ大やけどを負う不幸な事件に遭遇しながらも、20回を超える手術とリハビリを強靱な精神力きまうじんで克服した。

そして2006年インディアナポリス国際ヴァイオリン・コンクールで優勝。さらには2008年のカーネギー・ホール・デビューで称賛され、以来、アンドリス・ネルソンス、ヘルベルト・ブロムシュテット、ネヴィル・マリナーなどの名指揮者や、ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団、バイエルン放送交響楽団、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、ボストン交響楽団、クレーヴランド管弦楽団、シカゴ交響楽団などの著名楽団と共演を重ねている。BBCブロムスほか音楽祭にも多数出演。CD録音も多く、2016年にはグラミー賞“最優秀クラシック・インストゥルメンタル・ソロ賞”を受賞している。

N響定期公演への出演は今回が初めて。演目のプロコフィエフ《ヴァイオリン協奏曲第2番》は、2021年録音のCDで繊細かつ華麗な演奏を展開しているだけに、期待は大きい。

## 吉田珠代 (ソプラノ)



愛知県立芸術大学、同大学院で学び、新国立劇場オペラ研修所を修了。2006年文化庁新進芸術家留学生としてボローニャ、2008～2010年(公財)ロームミュージックファンデーション特別研究生としてミュンヘン及びウィーンに留学した。

2010年オーストリア・シュタイヤー音楽祭の《ドン・ジョヴァンニ》ドンナ・アンナ役でヨーロッパ・デビュー。2012年小澤征爾音楽塾《蝶々夫人》では、急遽タイトルロールを歌って絶賛された。以後、世界的指揮者と共演を重ね、2016年ズービン・メータ指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団とのサントリーホール30周年記念コンサートでの《第9》、2017年ウィーン楽友協会における《第9》でソリストを務めたほか、セイジ・オザワ松本フェスティバル、新国立劇場、日生劇場、PMF札幌などで活躍している。第6回静岡国際オペラコンクール最高位及び三浦環賞、第12回岩城宏之音楽賞を受賞。二期会会員。

深い音色と豊かな音楽性を兼ね備えたその歌声は各地で称賛を博しており、N響との初共演となる今回は、《三角帽子》におけるフラメンコ風の歌唱に注目が集まる。

[柴田克彦／音楽評論家] (ソリストプロフィール)

### Program Notes | 小室敬幸

スペインのグラナダ出身である指揮者パブロ・エラス・カサドによるスペイン・プログラムだ。この国を代表する作曲家ファリャの代表作、そしてタイトルに国名を含むラヴェル……。それらに比べるとプロコフィエフとスペインの関係は少し分かりづらいが、この協奏曲の第3楽章ではスペインを想起させるメロディとカスタネットが活躍する。しかしながらエラス・カサドは民俗性を強調しない。彼自身の言葉を引けば「民俗色に重きを置く新ロマン主義的な態度と<sup>たもと</sup>袂を分かちながら、作品の真髄、作品の本来の姿、ファリャの真の意図に迫る」(カサド指揮のCD『ファリャ:三角帽子、恋は魔術師』ライナーノーツより。西久美子訳)のだという。古楽や現代音楽を演奏するかの如く、楽譜の指示を精緻に音へと反映させるのだ。

### ラヴェル

## スペイン狂詩曲

フランスのモーリス・ラヴェル(1875～1937)がその生涯に、スペインを題材にした音楽を多く手掛けたのは、彼がこよなく愛した実母マリーがバスク地方出身でスペイン語を流暢に話していたからなのだろう。母の歌う民謡と故郷の思い出話を聴いて育ったラヴェルにとって、スペイン文化は理想化された憧れだった。

現存するラヴェル作品のなかで、最初にスペインの要素を大々的に取り入れたのは2台ピアノのための《ハバネラ》(1895)である。この曲とあまりに似ている《グラナダの夕暮れ》(1903)をドビュッシーが発表したため、実際にドビュッシーが《ハバネラ》を参照したのか真偽は不明だが、ラヴェルはドビュッシーに苛立っていたようだ。見返すためもあったのだろう、1907年に作曲が始められた《スペイン狂詩曲》のなかに、「1895年」と作曲年を付した上でこの《ハバネラ》も組み込まれた。

第1曲〈夜への前奏曲〉は、続けて演奏される次曲の前触れ。冒頭から執拗に繰り返される「ファ・ミ・レ・ド<sup>レ</sup>」が静寂を感じさせるが、夜の雰囲気は一様ではなく、時間の流れとともに空気感を変えてゆく。

第2曲〈マラゲーニャ〉は、マラガ地方発祥のフラメンコ的一种をモデルにしている。実際のマラゲーニャに用いられるカスタネットを取り入れ、弦楽器のピチカートがギターを模倣する。踊りが落ち着くと、前曲の夜の静寂が戻ってくる。

第3曲〈ハバネラ〉は、特徴的なリズムを繰り返すハバナ風コントルダンスのことなので、(スペインの植民地だった)キューバ発祥。だが《歌劇「カルメン」》の例もあるように、スペインと頻りに結び付けられてきた。原曲の2台ピアノ版では「耳で聴く風景」という曲集だったことから分かるように、ハバネラによってスペインの風景を描いている。

第4曲〈祭り〉は、スペイン北東部の踊りホタをモデルにしている。だが舞曲名をタイトルにしているのは、踊りそのものではなく祭りの熱狂を描写しているからなのだろう。夕暮れを想起させる官能的な中間部を経て、夜の静寂が戻ってきたあと再び、狂乱へと導かれていく。

|      |   |
|------|---|
| 作曲年代 | 1907～1908年2月(《ハバネラ》の原曲は1895年)   |
| 初演   | 1908年3月15日、エドゥアール・コロンヌ指揮、コロンヌ管弦楽団、パリ  |
| 楽器編成 | フルート2、ピッコロ2、オーボエ2、イングリッシュホルン1、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット3、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、大太鼓、シンバル、サスペンデッド・シンバル、トライアングル、タンブリン、カスタネット、小太鼓、タムタム、シロフォン、ハーブ2、チェレスタ1、弦楽 |

## プロコフィエフ

### ヴァイオリン協奏曲 第2番 ト短調 作品63

セルゲイ・プロコフィエフ(1891～1953)の作品としては珍しく、この曲の第3楽章はスペイン風である。本作に影響を与えたわけではないだろうが、彼が1923年に結婚したカロリナ・コディナ(愛称リーナ)はスペイン系の父とロシア系の母のもと、マドリードで生まれた声楽家であった。

その妻と子ども2人を連れて、ソビエト連邦となった祖国にプロコフィエフが完全帰国

したのは1936年のこと。その前年に、《バレエ音楽「ロメオとジュリエット」》と並行して書かれたのが本作である。彼がピアニストとして共演を重ねていたフランス人ヴァイオリニストのロベール・ソエタンのために作曲された。

1917年に完成した《ヴァイオリン協奏曲第1番》が緩—急—緩という3楽章制だったのに対し、本作は急—緩—急という一見したところ伝統的な構成だ。ところが細かく形式をみていくと、随所で定型を壊しにかかっている。また旋律は叙情的でありながらも、毛嫌いしていたグラズノフのような甘いロマンティシズムには傾かない、実に新古典主義的な音楽なのだ。

**第1楽章**はソナタ形式。無伴奏で提示される暗い第1主題と、明るく優しげな第2主題はどちらも対位的に管弦楽と絡みあいながら、プロコフィエフらしい遠隔調へとゆらめいて、落ち着くことなく色調を変えてゆく。速いテンポで最初のピークを迎えたあと、落ち着いたところから展開部に突入する。のちに控える再現部とコーダ（結尾）は短めで簡潔だ。

**第2楽章**は、変則的な複合3部形式。まるでバレエのパ・ド・ドゥを思わせる美しい主部（A-B-A'）に対し、ヴァイオリン独奏が細かい分散和音を繰り返すところからが中間部だ。ここに挟み込まれる叙情的なメロディは、第1楽章の第2主題を変形させたもの。最終的には主部が戻ってくるのだが、今度は美しい音楽のあいだに中間部の分散和音が挿入される。

スペイン風の**第3楽章**は、自由な形式。ソナタ形式の提示部と再現部の最後にもう一度、第1主題が登場するのでロンド風ともみなせる。中間部で提示される新たな主題が再現部とコーダにも加わり、新たな展開をもたらす。

|      |  |
|------|--|
| 作曲年代 | 1935年  |
| 初演   | 1935年12月1日、エンリケ・アルボス指揮、ロベール・ソエタン独奏、マドリド交響楽団、マドリド   |
| 楽器編成 | フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、トライアングル、カスタネット、小太鼓、サスペンデッド・シンバル、大太鼓、弦楽、ヴァイオリン・ソロ |

## ファリャ

### バレエ音楽「三角帽子」(全曲)

スペインのマヌエル・デ・ファリャ(1876~1946)は、1917年に書いたエッセイのなかで「純粋に厳密に愛国的な音楽を作曲したいと願うすべての人に私は助言したい。(私の住んでいる地域でいえばギター、カスタネット、タンブリンで構成されている)庶民のオーケストラとも呼べるものを聴くべきなのだ」と語っている。作曲の師ペドレルの影響で祖国の伝統音楽に興味をもったファリャは、フラメンコに目をつけた。《歌劇「はかない人生」》(1904



～1905)においては、フラメンコ専門の歌手カンタオールとギターをそのまま編成に加えている。その後、1907～1914年にかけてパリに滞在。ラヴェルやドビュッシーと交流するなかで、繊細にうつろうハーモニーを取り入れてゆく。

こうした作風の変化を経て、ファリャはスペイン帰国後に2つの舞台作品を完成させる。それがフラメンコ歌手のメロディを器楽にも取り入れた音楽劇《ヒタネリア》(1914～1915)と、フラメンコギターのサウンドを管弦楽に移し替えようとしたパントマイム《代官と粉屋の女房》(1916～1917)だ。改訂されることで前者は《恋は魔術師》(1919～1925)に、後者はこの《三角帽子》(1916～1919)となった。スペインのアンダルシア地方のある村を舞台にした、序奏付きの2部構成である。

**序奏** 権力者を象徴する軍楽隊風の響きと、民衆を象徴するフラメンコ風のサウンドが交差する短い導入部分。女声は、悪魔が目覚めますかもしれないから家の鍵を閉めなさいと人妻たちに呼びかける。

**第1部 ある日の〈昼下がり〉**、クロウタドリにからかわれた粉屋をみて、ブドウを収穫していた妻は笑い、夫婦でじゃれ合う。足音を模したティンパニが聞こえてくると(権力の象徴たる)三角帽子を被った代官が登場。粉屋の妻に魅了されると、夫婦は嫉妬しあう。〈粉ひき女の踊り〉でファンダンゴを踊る妻は代官をからかうが、代官は本気にしてしまい、〈ぶどう〉で煽<sup>あお</sup>られる。だが夫婦の企みに気づくと、顔を赤らめて激怒し退散する。

**第2部 〈近所の人たちの踊り〉**は同じ日の夜、聖ヨハネ祭での情景だ。妻に請われて粉屋がファルーカを舞う〈粉屋の踊り〉のあと、ドアがノックされる(ベートーヴェンの《運命》を引用して表現)と、代官の策略で粉屋は逮捕される。〈代官の踊り〉で、ひとりになった粉屋の妻のもとに代官がやってくるが水に落ち、粉屋の妻にも拒絶される。その上、乾かしていた衣服を逃げてきた粉屋にとられる。祭りが最高潮を迎えてホタが踊られている〈終幕の踊り〉のなか、仕方なく粉屋の服を着て出てきた代官は勘違いされ、散々な目にあってしまう。

|      |   |
|------|---|
| 作曲年代 | 1916～1919年  |
| 初演   | [バレエ全曲] 1919年7月22日、エルネスト・アンセルメ指揮、ロシア・バレエ団   |
| 楽器編成 | フルート3(ピッコロ2)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、カスタネット、シロフォン、シンバル、小太鼓、スペインデッド・シンバル、大太鼓、トライアングル、タムタム、グロッケンシュピール、ハーブ1、ピアノ(チェレスタ1)、弦楽、ソプラノ・ソロ |

# フェアリー バレエ音楽「三角帽子」歌詞対訳

*El sombrero de tres picos, ballet (The Three-Cornered Hat)*

訳◎濱田吾愛 | Translation: Wakana Hamada

B

14.8.15, FEB. 2024

## Introduction

Casadita, casadita,  
¡Cierra con tranca la puerta!  
¡Que aunque el diablo esté dormido  
a lo mejor se despierta!

## Danza del molinero

Por la noche canta el cuco  
advirtiendo a los casados  
que corran bien los cerrojos  
¡qué el diablo está desvelado!  
Por la noche canta el cuco...  
¡Cucú! ¡Cucú! ¡Cucú!

## 序奏

新妻さん、新妻さん  
扉にかんぬきをかけておきな!  
悪魔のやつは眠ってるようで  
いざとなったら目を覚ますから!

## 粉屋の踊り

夜ともなればカッコウが鳴く  
夫婦ものに知らせてるんだ  
しっかり錠を下ろしておけと  
悪魔が見張っているからと!  
夜ともなればカッコウが鳴く……  
カッコウ! カッコウ! カッコウ!

フランスの作曲家。ピアノ曲やオーケストラ曲で人気を博し、洗練された美しく繊細な書法は「スイスの時計職人」などとも評された。几帳面な性格で、外出時には完璧で隙のない上品な身なりを心がけたという。そんなエピソードに呼応するように、彼の創作過程は詳細にされず、ラヴェルいわく「音符ひとつ記すことなく何年も心に抱き続け」ることがあるほど「長い懐胎期間が必要」だとし、いつもきちんと仕上げしてから公開された。

繊細で几帳面なオシャレ番長

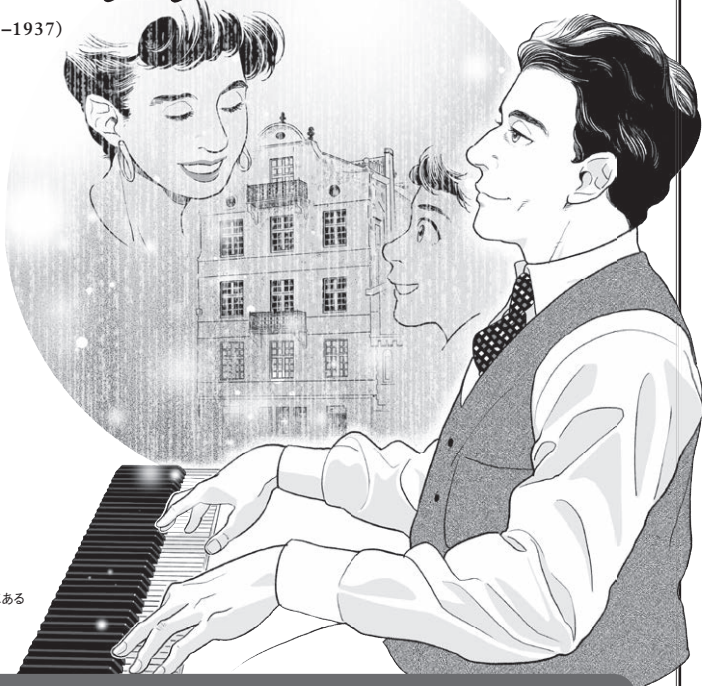
# モーリス・ラヴェル

Maurice Ravel (1875–1937)

B

2024, FEBRUARY

[第2006回]



スペインにほど近い、フランス領バスク地方のシブールにある生家と母親に想いをはせて——  
イラストレーション: ©IKE

## ラヴェルとスペイン

ラヴェルはパリで育ったパリっ子だが、両親が出会ったのは、お隣の国スペインでのこと。母親は母語のバスク語に加え、フランス語とスペイン語も流暢に話したという。ラヴェル自身はスペイン語を話さなかったようだが、母親が歌う子守歌や思い出話などから、スペインを身近に感じながら育ったことだろう。そんなラヴェルの作品にはスペインの要素が織り込まれた作品も多く、本日演奏される《スペイン狂詩曲》はその代表だ。

PROGRAM

C

第2005回

NHKホール

2/9 **金** 7:30pm

2/10 **土** 2:00pm

指揮

大植英次

コンサートマスター

郷古 廉

[開演前の室内楽(Cプログラム限定)]

9日(金)6:45pm～/10日(土)1:15pm～

ヴァイオリン:倉富亮太、宮川奈々 ヴィオラ:飛澤浩人 チェロ:小島幸法 コントラバス:矢内陽子  
ドヴォルザーク/弦楽五重奏曲 第2番ト長調 作品77—第1楽章

※演奏はご自身の座席でお楽しみください。

※演奏中の客席への出入りは自由です。

ワーグナー

ジークフリートの牧歌[18']

R. シュトラウス

交響詩「英雄の生涯」作品40[45']

- I 英雄
- II 英雄の敵
- III 英雄の伴侶はなよりよ
- IV 英雄の戦い
- V 英雄の業績
- VI 英雄の引退と死

※ この公演に休憩はございません。あらかじめご了承ください。

※ 演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ご協力をお願いいたします。

詳しくは58ページをご覧ください



こちらのQRから  
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

## 大植英次 (指揮)



広島県生まれ。桐朋学園音楽大学で齋藤秀雄に師事し、1978年に小澤征爾の招きで渡米。ボストンのニューイングランド音楽院でラリー・リヴィングストンに学ぶ。またタンゲルウッド音楽祭に参加し、恩師レナード・バーンスタインに出会う。1985年にバーンスタインとともに広島平和コンサートに参加し、萩場富美子《広島レクイエム》を指揮した。

1986年にバッファロー・フィルハーモニー管弦楽団の準指揮者、1991年からエリー・フィルハーモニックの音楽監督、1995年にはミネソタ管弦楽団の第9代音楽監督と、北米のオーケストラのポジションを歴任。1998年にはハノーファー北ドイツ放送フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者となり、2009年には名誉指揮者の称号を与えられた。

日本では2003年から朝比奈隆の後任として大阪フィルハーモニー交響楽団の音楽監督に就任し、大阪城西ノ丸庭園での「星空コンサート」、御堂筋や中之島周辺のショールームなどで開催する「大阪クラシック」のプロデュースなど、普及にも力を入れた。現在は大阪フィルハーモニー交響楽団の桂冠指揮者。2005年夏にはバイロイト音楽祭で日本人として初めて《トリスタンとイゾルデ》を指揮。2006年から2010年までバルセロナ交響楽団の音楽監督を務めた。

NHK交響楽団とは1999年に定期公演で初共演。2021年には特別公演でも久しぶりに共演したが、定期公演への出演は25年ぶりとなる。

[片桐卓也 / 音楽評論家]

## Program Notes | 小宮正安

「英雄を必要とする国は不幸だ」。20世紀ドイツを代表する文学者ブレヒトが、自作の戯曲にしたための言葉である。近代以降、ヒトラーをはじめとするさまざまな政治家が英雄と崇められて華々しく登場した末に、恐るべき独裁体制を築き上げた時代を体験したからこの言葉だろう。本日演奏されるのは、まさにその近代ただ中の19世紀において生まれた「英雄」をテーマにした2つの作品。そこに描かれたのは、輝けるヒーローなのか、それとも……？

## ワーグナー

## ジークフリートの牧歌

リヒャルト・ワーグナー(1813~1883)の数々の楽劇の中でも、空前のスケールを誇る《ニーベルングの指環》。このシリーズを構成する4つの楽劇のうち、第3弾にあたるのが

《楽劇「ジークフリート」》である。「ジークフリート」とは、《ニーベルングの指環》後半部分に登場する英雄であり、「勝利(ジーク)」と「平和(フリート)」をもたらす者、という意味合いだ。

この《楽劇「ジークフリート」》で奏でられる数々の動機が登場するのが、《ジークフリートの牧歌》である。そのため、楽劇の聴きどころを作曲者のワーグナー自身が管弦楽用にまとめたハイライト版のように誤解されがちだが、そうではない。むしろ《ジークフリートの牧歌》に登場する動機の幾つかが、作曲途中だった《楽劇「ジークフリート」》に用いられた。

曲そのものは、数年にわたる不倫関係の末、1870年によく結婚して妻となったコジマの誕生日祝いとして作られた。当時、ワーグナーとコジマの間には既に子供が3人生まれており、とりわけ1869年に長男ジークフリートを出産してくれたことに、ワーグナーがきわめて感謝していたことが作曲の動機となっている。

このように私的な要素の強い作品ゆえ、初演もスイスのトリープシェンの自宅において、朝、眠っていたコジマを夢の中から目覚めさせるためにおこなわれた。結果、英雄的な力強い響きを得意とするワーグナーの作品にしては、異例の小編成となっている(初演の際には、合計わずか16台の楽器が用いられている)。

しかも、楽劇の中では数々の血なまぐさい行為を繰り返すジークフリートだが、この作品には平和や憧れが溢れているのが特徴だ。「戦への勝利」の象徴であるトランペットの出番が、わずか10数小節しかないのもその表れ。逆に言えば、《楽劇「ニーベルングの指環」》の英雄的な筋書を彷彿させる行為(例えば愛する女性を目覚めさせ、息子をジークフリートと名付ける)を私生活で実現するいっぽう、その生活に平和を求めたワーグナー自身の姿が滲み出た1曲である。

|      |  |
|------|--|
| 作曲年代 | 1870年                                      |
| 初演   | 1870年12月25日、スイス・トリープシェンのワーグナー宅にて           |
| 楽器編成 | フルート1、オーボエ1、クラリネット2、ファゴット1、ホルン2、トランペット1、弦楽 |

## R. シュトラウス

### 交響詩「英雄の生涯」作品40

このワーグナーに心酔した若き作曲家のひとりが、リヒャルト・シュトラウス(1864～1949)である。彼は、ワーグナーの唱えた音楽の進歩進化に基づく作品を書くことで、繁栄の陰でさまざまな矛盾を露呈しつつあった19世紀市民社会に風穴をあけることを目指していた。そんなシュトラウスの姿勢が如実に現れたジャンルこそ「交響詩」、ワーグナーばりの大編成の管弦楽と斬新な音楽技法を用い、音楽を通じた情景や思想の描写が徹底して追求された。

その7作目にあたるのが、1898年に作られた《英雄の生涯》である。全体は6つの部

分から構成され、楽譜に記された原題に忠実に訳すと、「英雄」「英雄の敵対者」「英雄の伴侶」「英雄の戦場」「英雄の平和の業績」「英雄の隠遁と知の完成」となる。

なお、作品のタイトルの一部でもある「英雄」とは誰を指すのかについては、さまざまな見解が存在する。冒頭部分の〈英雄〉が変ホ長調の主調で始まることから、同じ調性に基づくベートーヴェンの《英雄交響曲》が意識されたのは間違いない。また〈英雄の業績〉において、シュトラウス自身がそれまで書いた作品の引用が次々と出現することから、英雄とはシュトラウスその人を意味するとも言われてきた。

ただし、別の見方もできるだろう。というのも、例えばベートーヴェンの《英雄交響曲》に聴かれるような、死を賭した英雄の活躍、さらには死を通じた英雄の復活、というプロセスはここには存在しない。英雄は敵対者と戦うものの、それは彼が伴侶を得てからのこと。(しかも〈英雄の伴侶〉では、シュトラウスの妻だったパウリーネの勝気な姿を彷彿させ、独奏ヴァイオリンが英雄をきりきり舞いさせる)。〈英雄の戦い〉においても、英雄のテーマだけでなく伴侶のテーマが輝かしく登場し、英雄を勝利へと導く。またさらにこの英雄、悲劇的な死とは正反対の悠々自適な暮らしを始め、平穏に息を引き取る……。

このように考えると、同じ19世紀に書かれた「英雄」関係の音楽であっても、ベートーヴェンとシュトラウスのそれとの間には、大きな隔りがある。英雄を戴く新たな社会の出現への期待の中に書かれた前者と、そうした社会が破綻をきたしつつある状況を直視せざるをえなかった後者。公的な世界を突き動かす英雄を大真面目に描いたようでありながら、シュトラウスの日常をも思わせる英雄の私生活、さらには「脱英雄」をも想起させる。一筋縄でゆかない、あまりにも複雑な新時代の英雄を描いた大作に他ならない。

|      |  |
|------|--|
| 作曲年代 | 1898年  |
| 初演   | 1899年3月3日、フランクフルト  |
| 楽器編成 | フルート3、ピッコロ1、オーボエ4(イングリッシュ・ホルン1)、クラリネット2、Esクラリネット1、バス・クラリネット1、ファゴット3、コントラファゴット1、ホルン8、トランペット5(舞台外にトランペット3)、トロンボーン3、テノール・チューバ1、バス・チューバ1、ティンパニ1、大太鼓、シンバル、サスペンデッド・シンバル、小太鼓、中太鼓、タムタム、トライアングル、ハーブ2、弦楽 |

ザッツ・エンターテインメント！濃厚なオーケストレーションと、日常的な率直さ。絢爛豪華な前時代的要素と、整理された実験精神。リヒャルト・シュトラウスの音楽には、ワーグナーやブラームス亡きあとのドイツ音楽をよって立つ芸術性と、現代に通じるエンタメ性とは、同時に存在する。なかでも交響詩は彼の代表作が並ぶジャンル。卓抜した管弦楽法で書かれた楽曲で、オーケストラの面白さを隅から隅まで味わい尽くしたい。

Richard Strauss (1864-1949)

# リヒャルト・シュトラウス

オーケストラで味わい尽くすエンタメ

C  
2024  
FEBRUARY  
[第2005回]  
👁️👁️

## ヒーロー登場

本日演奏される《英雄の生涯》は、「英雄」の名にふさわしく、文句なしに華があってカッコいい曲だ。世界を救ってくれるヒーローは雄々しく、正義は常に勝つ！そんなヒーローと恋に落ちるヒロイン。ああ、めでたしめでたし……と終わらないのがリヒャルト・シュトラウスで、ヒーローの人生はまだまだ続く。——最後まで人生をまっとうする、新たな英雄像の誕生だ！



ホルンが大活躍する  
リヒャルト・シュトラウス  
《英雄の生涯》  
イラストレーション ©IKE



# N響百年史

## 第四十四回「大改組」終幕——近衛時代の終焉

片山杜秀 — Morihide Katayama

二〇二六年のN響創立百周年に向け、NHK-FM「クラシックの迷宮」のパーソナリティとしてもお馴染みの思想史研究者で音楽評論家の片山杜秀さんが、時代背景とともにN響の歴史をひもときます。近衛秀麿に叛旗をひるがえした新交響楽団の楽団員たち。この造反劇の帰趨はいかに——

### 法人から組合へ

新交響楽団は1935(昭和10)年6月11日、新しく作られた規約にもとづいて、楽団員の自治を基本とする組合組織として新たに出発した。当時の楽団員の現状認識にもとづけばそうなる。法人から組合に革命的に転換した。オーケストラを経営し人事などに実質的権限をもつなんらかの中核組織に楽団員が雇われているのではなくなった。みんなが権利と義務を平等に有したフラットな結合体になった。当然、組合員の身分は厚く保障される。逆に組合員の勝手も許されない。規約の第10条はこうだ。「団員ハ理事会ノ承認ヲ得ズシテ他ニ出演スルコトヲ得ズ」。第12条は「団員ハ総会ノ認許アルニ非ザレバ脱退ヲ為スコトヲ得ズ」。みんながみんなのために。裏切りも抜け駆けもご法度だ。とどめは前回にも引いた第19条である。「団員ノ除名<sup>オコビ</sup>及 団員脱退ノ承認ハ被除名者又ハ脱退希望者ヲ除ク他ノ全員ノ一致<sup>モツ</sup>ヲテ之ヲ為ス」。除名の要件は第11条に示されている。怠慢だったり弾けなくなったり。「よそから上手な演奏家を新たに連れてくるので、はみ出すおまえは用済みだ」といった話は断じて受け入れられない。とにかく団員総会での全員一致でなければ脱退もできなければ除名もされない。

組合組織として実質的にスタートしたのは7月7日。では6月11日が何なのかといえば、新規約承認のための必要な署名が揃ったことが確認された日だ。近衛秀麿も、6月7日に署名している。7月7日は、第1回団員総会が開かれ、組合を円滑に機能させるための理事会のメンバーが決定された日だ。理事は小森宗太郎<sup>そうたろう</sup>、大熊次郎<sup>うしち</sup>、大村卯七<sup>ひさざう</sup>、寺田日瑛三<sup>ひさざう</sup>、日比

野愛次。理事長に就任したのは近衛秀麿である。近衛体制を支えていた事実上の楽団事務長、原善一郎の追放劇が完了したのは6月27日。では近衛は、それまでの専制君主的役回りを自らの意思で放棄し、楽団員による革命を認め、新規約を遵守する“立憲君主”になることを決意したのか。

## 近衛秀麿の思惑

いや、そうではなかった。彼はまだ反撃可能と思っていた。とりあえず担がれておいて時間稼ぎをしながら、裏で日本放送協会と結んで反革命を実らせようとしていた。経過をそのように観察することができる。どういうことか。日本放送協会は、新交響楽団の最大のスポンサーであり、オーケストラに対して宗主国的権力を行使できる立場にあったといえる。新交響楽団の経営は演奏会収入だけではまったく無理で、近衛の私財と国家的信用、そしてなによりも放送局のスタジオで頻繁に演奏して出演料を稼ぎ、それとは別に放送局からまとまった助成金を受け取ることで成り立っていた。しかも日本放送協会は新交響楽団の代表者を近衛と認識している。オーケストラの運営形態を相談なく変更することはまかりならぬと、約束を交わしてもいる。むろん、新交響楽団の楽団員たちは近衛に秘密に計画を推進していたのであり、放送局への上部工作をして味方を作っていた様子もない。ということは、放送局は相変わらず近衛側のはずである。近衛が新たな組合の理事長に祭り上げられても、放送局は新交響楽団の組合化を認めるわけではなく、新規約も新理事会も無効である。そこを楽団側があくまで押し通そうとすれば、日本放送協会は新交響

楽団と縁を切るだろう。身分保障を求めて収入を失うとは！なんと愚かしいことだろう。ことがそこに至れば、楽団員たちも迷える夢から醒めるに違いない。放送局と近衛に改めて跪く。近衛のシナリオだった。

新組織の理事長に就任して楽団員側に屈服したかにみせていた近衛が、放送局と事前に秘密協議をしたうえで、本心をあらわにして大反撃に出たのは、7月18日である。その日、荏原の練習場で、放送番組用のリハーサルが行われるはずだった。楽団員たちが集まり、近衛もやってきた。ところが近衛は練習を放棄し、いきなり最後通牒を発した。オーケストラと放送局との関係を保てなくなるので、組合は即時解散せよ。近衛が先頭に立って新しいオーケストラを作るので、希望者は即刻参加せよ。近衛は本日ただいま組合を脱退する。いきなり規約の第12条や第19条も破っている。近衛はそうして反革命を瞬時に成就しようとした。齋藤秀雄や小森ら反近衛派の幹部連中に操られていた楽団員たちは、このあまりの重大さを初めて認識し、多数が手のひらを返して自分の側に付くだろう。そう近衛は信じていた。山田耕筰率いる日本交響楽協会が、大多数の楽団員の裏切りと近衛担ぎによって崩壊し、新交響楽団が結成された10年ほど前のドラマを再現しようとしたわけだ。新交響楽団の次だから、次に生まれるのは新々交響楽団であろうか。

## 近衛の反撃と主張

その日から近衛はジャーナリズムに対してさかんに自らの意思を表明するようになる。月刊誌『音楽世界』の7月号と8月号に分載された文章はとりわけ重要だ。近衛は自分が楽団員に

はめられたのだと強調する。「新響は知られてゐるやうに、十年間何等紙に書いた規約なしに、総て不文律で万端を処理して来たが、最近に於ては種々新しい事態にぶつかつて法文上の憲法めいたものを起草して置く必要に迫られ、此の事は二、三年前から(楽団員による)委員会の手で進められて来たのであつた。所が今度調印するために僕の前に提出された書類は、その草案であると云ふ説明だつたので、家を出かける間際の、慌しい時間に逐条の検討もせず、不注意に、調印してしまつた。その書類が草案所か、組合結成の規約書だつたのである」。この規約の最終案決定には然るべき手続きがあつたはずなのに、近衛は途中経過を知らされていなかった。「それ故に第三者が此の運動を目して陰謀的だと観たとしてもそれは当然だと近衛は言う。

では、なぜに楽団員はそこまでして大陰謀をめぐらせたのか。近衛は説明する。「現在洋楽を聞いてゐる人々の進歩は、大したものだ。その『耳』の進歩に対して、新響は追ひついて行くことが現在既に困難だ」。近衛は難関にどう取り組もうとして来たか。「新響の芸術的な責任を主として背負つてゐる僕としてはどうしてもこの点を看過して置くことは出来ない。聴衆の進歩と楽団の実力とのギャップ。この渠が日本の現状で埋められ得ないかどうか。このことは勤くとも楽壇の事情に通じた聴衆は返つて良く知つてゐることであると思ふ」。楽団員を新世代の技量の高い人々と取り換えて行かねば対応不能だと、近衛は世間にはっきり言う。「それに対して楽員諸君の音楽的理想の水準は、どうもあまり高いとは云へぬ」。自分のポジションを守りたい。現状維持しか頭にない。「楽員の一部分が僕に絶対に秘して企画した所謂新響組合組織なるものは抽象的に『音楽芸術の向上を

計る』とは云つても現在の沈滞を打破すべき何等の項目を含んで居ない」。組合は楽団員の生活保障組織に過ぎない。音楽を育てることを阻む。楽団員たちこそ退嬰的で保守的で反革命的ではないか。近衛の立場である。

放送局も組合から法人組織に戻さねば新交響楽団を出演させぬと唱えている。近衛は言う。そんな放送局の姿勢に対し「楽員諸君の疑問を持つ点は、強力な法人が出来て、それがオーケストラの主体であり、それが楽員個人個人と契約すると云ふ点であるらしい。楽員は、或ひは自分達が法人の主体になりたがっているのではないか知らん」。近衛は怒る。「これは問題にならぬ。こんな例は世界中何処を捜してもない。日本でも官吏の身分保証令と云ふものがあつて、或る程度官吏はその地位を保証されてはゐるが、若し新響の如き芸術団体の場合、あの組合の草案の通り一人の反対があつても自発的退会も出来なければ、又退会を求めることも出来ない」と云ふのでは、これは(楽団員の)完全な地位擁護ではあるが、仮に後年他にも団体がどんどん出来てそのレベルが上つて、今の新響だけが取り残されてゐやうとも、楽員はどこまでも新響に喰ひ下がつて行けるし、新響は止め度なく人後に落ちて、然もほどこす策がない事になる」。近衛はそれでは新交響楽団が滅びてしまうと言う。音楽監督的立場にある者がメンバーを取り替えて行く権限を有さねばオーケストラなんてお先真つ暗なばかりだ。「現在でさへ勉強不十分なのにさうなつたら一体どう云ふことになるであらうか。世界中何処へ行つてもオーケストラは主体たる協会との個人契約であるのが原則だ」

## はずれた目論見

近衛は矢継ぎ早にこのような意見を世間に発表する。それで日本放送協会も世間もますます自分の味方になる。音楽ファンは、うまいオーケストラを聴きたいのだから、自分を熱狂的に支持するはずだ。なにしろベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の定期演奏会にも招聘される日本人唯一の指揮者なのだから。だが甘かった。日本交響楽協会の分裂劇やコロナ事件のときは勝手が違っていた。やたら洋行したがっては、欧州のレベルに比べて東京は情けないと、自分のオーケストラを侮蔑<sup>しょうべい</sup>する態度をしばしば示すようになった近衛に対する、楽団員の結束は固かった。新しいオーケストラに

参加しようとする“裏切者”がちっとも出てこない。放送局も、近衛の描いた筋書きを信じ込まされて近衛に乗っていたが、だんだん自信がなくなる。当時の番組編成では月に数回、新交響楽団がスタジオで生演奏し、名曲から日本人作曲家の新作までを電波に乗せるのが普通であった。それが1935年の夏には止まってしまった。世間も“上から目線”の過ぎる近衛よりも、労働者である楽団員の側に同情的になる。

## 無指揮者演奏会へ

楽団側はそこで大胆な勝負に出た。8月18日、無指揮者演奏会を日比谷野外音楽堂で開催した。指揮者なしのオーケストラといえば、ソ連



1935年8月2日、無指揮者演奏会に向けて練習する楽員たち

の首都モスクワに1920年代に誕生し、高い技量を誇った、まさに組合的・社会主義的交響楽団ペルシムファンズが当時は有名である。音楽性の高いメンバーが揃って合奏に修練すれば、大オーケストラの演奏も統率者なしで可能だ。しかも指揮者の専制的解釈ではなく、楽団全体の民主主義的解釈によって楽曲が演奏される。そうやって立派にできれば、近衛の振りまく、新交響楽団は下手であると言説も説得力を失うだろう。賭けであった。

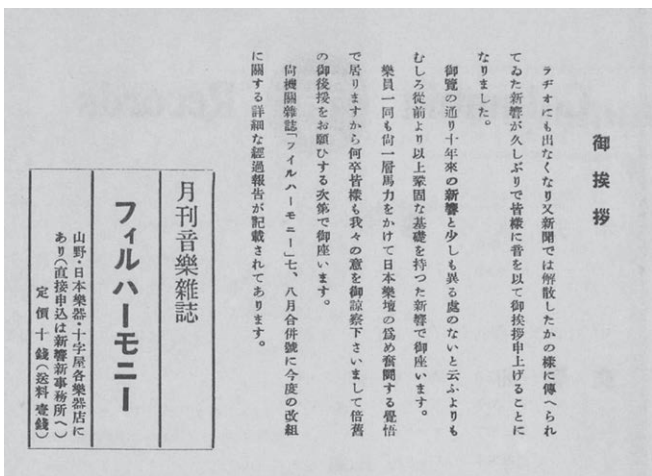
曲目は、グリンカの《歌劇「ルスランとリュドミーラ」》の序曲、シューベルトの《交響曲第7番「未完成」》、そしてベートーヴェンの《交響曲第5番》。なにしろ、大華族や放送局と係争中で話題の新交響楽団である。日頃クラシック音楽を聴かない人まで詰めかけた。集まったのは5000人！大好評に終わった。楽団員が気持ち<sup>たまもの</sup>をそろえて執念を込めた賜物であろう。きわめてうさ方の作曲家、深井史郎は『音楽新

聞]9月1日号でこう評した。「殊に『未完成交響曲』は殆ど<sup>ほとん</sup>完成に近い演奏であつた。当夜特にわれわれの認めた所は、特に管の部の音色の実に美しかった事である。このような技術は楽団が10年の努力を以ての賜物であらう。楽団のこれ以上の進歩を敢行するためには、今後楽団員の入れかへなどといふ機械的な手段よりもむしろ優秀なる指揮者を招聘すべく努力した方が正しいと思はれる」

放送局は組合側に乗り換えた。近衛時代はこうして終わった。

#### 文 | 片山杜秀(かたやま もりひで)

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾大学法学部教授。2008年、『音盤考現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』『ゴジラと日の丸』『近代日本の右翼思想』『未完のファシズム』『見果てぬ日本』『尊皇攘夷』ほか著書多数。



無指揮者演奏会のプログラムに掲載された「御挨拶」には、「楽員一同も尚一層馬力をかけて日本楽壇の為め奮闘する覚悟」と決意表明がなされている

# 2024年4月定期公演のプログラムについて

## 公演企画担当者から

1939年生まれのマレク・ヤノフスキと、1940年生まれのクリストフ・エッセンバッハ。ますます円熟味を増すドイツ音楽の名指揮者が相次ぎ登場する。2人のイメージを一語で表すなら、“剛”と“柔”ということになるだろうか。芸風は大きく異なるが、どちらも19世紀以前の伝統を今に伝える貴重な存在だ。巨匠のタクトによって、ロマン派の名交響曲がいつもの輝きを放つ。

### ヤノフスキがシューベルトとブラームスで 浮かび上がらせるハ短調の悲劇性

絶対的存在として君臨するタイプの指揮者は、今やほとんどいなくなったが、[Aプログラム]のヤノフスキは、そうしたオーラを放つ数少ないうちのひとりであろう。指揮台に立つと、鋭い眼光に誰もが思わず居住まいを正したくなる。練習では時に激しい言葉が飛び交い、うまく行かないと我々事務方まで叱責を食らう。だがこうした厳しさも、音楽へのひたむきな愛と情熱ゆえであることを、皆が知っている。

かつては広範なレパートリーを誇ったヤノフスキだが、前回の共演の際、「この先は本当の傑作と呼べる19世紀ドイツ交響楽に的を絞り、受け継いだ遺産を若い音楽家に伝えたい」と語っていた。それを受けて、今回はブラー

ムス《交響曲第1番》をお願いした。鋭い子音を発するかのようなリズム、句読点をはっきりつけ、曲の構造を浮き彫りにする音楽作りで、壮大な悲劇性が浮かび上がるだろう。

前半はシューベルト《交響曲第4番》。ブラームスと同じハ短調を主調としながら、いかにもシューベルトらしい意表を突いた転調が繰り返り広げられる。「悲劇的」の副題は、本人が名付けたもの。19歳の青年作曲家の充溢する<sup>じゅういつ</sup>パトスが、ロマン派の時代の本格的な到来を告げるかのようだ。

### エッセンバッハがひとつひとつのフレーズを いとおしむブルックナー《第7番》

同じドイツ音楽でも、エッセンバッハが指揮すれば、全く異なった容顔を見せるはずだ。リハーサルでは決して多くを語らず、もっぱら身振りと表情で、描きたい音楽の方向性を示す。少年のような瞳の輝きは昔から変わらない。骨董<sup>こつどう</sup>の目利きが掌で名器を愛でるように、ひとつひとつのフレーズをいとおしんで奏でる姿から、音楽することの喜びがにじみ出す。

[Cプログラム]の《交響曲第7番》は、ブルックナーを得意とするエッセンバッハが特に愛好する作品。ワーグナーの死を悼んで書かれ

た第2楽章や、第3楽章のトリオのような、緩やかな部分の表情づけに、エッセンバッハらしさが表れるのではないかと予想する。室内楽的とも言える密やかな息遣いに、聴き手は、彼が作品に寄せる心からの共感を感じ取ることになるだろう。

### エッセンバッハと追体験する シューマンの苦悩と喜び

若い演奏家のサポートは、エッセンバッハにとって、重要テーマのひとつ。[Bプログラム]に出演するキアン・ソルターニは今年32歳、既に世界の第一線で活躍している人気チェリストである。2018年に南西ドイツ放送交響楽団と演奏したシューマンの《チェロ協奏曲》では、エッセンバッハの指揮に支えられ、のびのびと歌う姿が印象的だった。6年を経て、N響との演奏ではどのような変化が見られるか、楽し

みに待ちたい。

《交響曲第2番》は、エッセンバッハによれば「精神的不調の最中にあったシューマンだからこそ、書き得た」作品である。シューマンの苦悩は「信じられないほど美しく、かつ悲劇的な第3楽章において、最もストレートに表現されている」。

シューマン尽くしのオープニングは《歌劇「ゲノヴェーヴァ」序曲》。中世の伝説を題材とし、ワーグナーの《ローエングリン》によく似たストーリーを持つオペラ自体は、めったに上演されないが、〈序曲〉はしばしばコンサートピースとして取り上げられる。陰鬱なハ短調から喜ばしいハ長調へと至る道筋は、《交響曲第2番》の前触れにもなっている。

[西川彰一／NHK交響楽団 芸術主幹]

**A** 4/13 土  
6:00pm  
4/14 日  
2:00pm

NHKホール

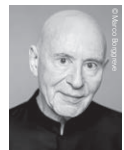
シューベルト／交響曲 第4番 ハ短調 D. 417「悲劇的」  
ブラームス／交響曲 第1番 ハ短調 作品68  
指揮：マレク・ヤノフスキ



**B** 4/24 水  
7:00pm  
4/25 木  
7:00pm

サントリーホール

シューマン／歌劇「ゲノヴェーヴァ」序曲  
シューマン／チェロ協奏曲 イ短調 作品129  
シューマン／交響曲 第2番 ハ長調 作品61  
指揮：クリストフ・エッセンバッハ  
チェロ：キアン・ソルターニ



**C** 4/19 金  
7:30pm  
4/20 土  
2:00pm

NHKホール

ブルックナー生誕200年  
ブルックナー／交響曲 第7番 ホ長調  
指揮：クリストフ・エッセンバッハ



# チケットのご案内(定期公演 2023年9月～2024年6月)

## 定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～27%お得です！(割引率は公演や券種によって異なります)

|                         |                       |  |
|-------------------------|-----------------------|--|
| 発売開始日<br>(10:00amからの受付) | 年間会員券、シーズン会員券(Autumn) | 販売終了                                     |
|                         | シーズン会員券(Winter)       | 販売終了                                     |
|                         | シーズン会員券(Spring)       | 2024年2月7日[水](定期会員先行) / 2024年2月16日[金](一般) |

## 料金(税込)

| 券種                |        | S                   | A                   | B                   | C                   | D                   | D(ユースチケット)         |
|-------------------|--------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|--------------------|
| 年間<br>会員券<br>(9回) | Aプログラム | ¥69,300<br>(¥7,700) | ¥58,050<br>(¥6,450) | ¥45,090<br>(¥5,010) | ¥36,720<br>(¥4,080) | ¥28,800<br>(¥3,200) | ¥8,100<br>(¥900)   |
|                   | Bプログラム | ¥74,970<br>(¥8,330) | ¥64,260<br>(¥7,140) | ¥51,255<br>(¥5,695) | ¥41,310<br>(¥4,590) | ¥33,660<br>(¥3,740) | ¥9,720<br>(¥1,080) |
|                   | Cプログラム | ¥57,780<br>(¥6,420) | ¥50,760<br>(¥5,640) | ¥40,500<br>(¥4,500) | ¥32,760<br>(¥3,640) | ¥25,020<br>(¥2,780) | ¥7,200<br>(¥800)   |

| 券種                  |        | S                   | A                   | B                   | C                   | D                   | D(ユースチケット)         |
|---------------------|--------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|--------------------|
| シーズン<br>会員券<br>(3回) | Aプログラム | ¥24,360<br>(¥8,120) | ¥20,310<br>(¥6,770) | ¥15,870<br>(¥5,290) | ¥12,870<br>(¥4,290) | ¥10,140<br>(¥3,380) | ¥3,300<br>(¥1,100) |
|                     | Cプログラム | ¥20,340<br>(¥6,780) | ¥17,910<br>(¥5,970) | ¥14,250<br>(¥4,750) | ¥11,520<br>(¥3,840) | ¥8,790<br>(¥2,930)  | ¥3,000<br>(¥1,000) |

( )内は1公演あたりの単価

※今シーズンより定期会員券の料金を改定させていただきます。何卒ご了承のほどお願い申し上げます(A-Cプログラムのユースチケット定期会員券[D席]料金に変更はありません)。

## 1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

|                         |        |  |
|-------------------------|--------|--|
| 発売開始日<br>(10:00amからの受付) | 2月     | 発売中                                      |
|                         | 4・5・6月 | 2024年2月28日[水](定期会員先行) / 2024年3月3日[日](一般) |

※今シーズンより1回券の料金を改定させていただきます(E席、ユースチケットをのぞく)。何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

※[WEBセレクト3+]の販売は前シーズンをもって終了いたしました。

## ユースチケット

25歳以下の方へのお得なチケットです。1回券と定期会員券(D席)でご利用いただけます。1回券はすべての券種で一般料金から50%以上お得にお買い求めいただけます。料金は各公演の情報をご覧ください。

※ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。

※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳しくはN響ホームページをご覧ください。

お申し込み

WEBチケットN響

<https://nhkso.pia.jp>



N響ガイド | TEL 0570-02-9502

営業時間: 10:00am～5:00pm

定休日: 土・日・祝

- 主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業
- 発売初日の土・日・祝日は10:00am～3:00pmの営業
- 電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

Please follow us on



N響ニュースレター

最新情報をメールでお届けします。  
WEBチケットN響の「利用登録」からご登録ください。



# 2023-24定期公演プログラム

|            |                |  |                                 |                   |                   |
|------------|----------------|--|---------------------------------|-------------------|-------------------|
| 2024<br>04 | A              | 第2007回   | 妥協なき巨匠 ヤノフスキと拓くブラームス《第1番》の新たな世界 | 一般                | ユースチケット           |
|            |                | 4/13(土) 6:00pm                                   | シューベルト/交響曲 第4番 ハ短調 D.417「悲劇的」   | S ¥9,100 S ¥4,000 | A ¥7,600 A ¥3,500 |
|            |                | 4/14(日) 2:00pm                                   | ブラームス/交響曲 第1番 ハ短調 作品68          | B ¥5,900 B ¥2,800 | C ¥4,800 C ¥2,100 |
|            | NHKホール         | 指揮:マレク・ヤノフスキ                                     | D ¥3,800 D ¥1,500               | E ¥2,000 E ¥1,000 |                   |
| B          | 第2009回         | 巨匠が生涯をかけて探究する シューマンの奥深き世界                        | 一般                              | ユースチケット           |                   |
|            | 4/24(水) 7:00pm | シューマン/歌劇「ゲノヴェーヴァ」序曲                              | S ¥9,800 S ¥4,500               | A ¥8,400 A ¥4,000 |                   |
|            | 4/25(木) 7:00pm | シューマン/チェロ協奏曲 イ短調 作品129                           | B ¥6,700 B ¥3,300               | C ¥5,400 C ¥2,500 |                   |
|            | サントリーホール       | 指揮:クリストフ・エッセンバッハ<br>チェロ:キアン・ソルターニ                | D ¥4,400 D ¥1,800               | E ¥1,600 E ¥800   |                   |
| C          | 第2008回         | 巨匠エッセンバッハ 満を持してブルクナーをN響で初披露                      | 一般                              | ユースチケット           |                   |
|            | 4/19(金) 7:30pm | ブルクナー 生誕200年                                     | S ¥7,600 S ¥3,500               | A ¥6,700 A ¥3,000 |                   |
|            | 4/20(土) 2:00pm | ブルクナー/交響曲 第7番 ホ長調                                | B ¥5,300 B ¥2,400               | C ¥4,300 C ¥1,900 |                   |
|            | NHKホール         | 指揮:クリストフ・エッセンバッハ                                 | D ¥3,300 D ¥1,400               | E ¥1,600 E ¥800   |                   |
| 2024<br>05 | A              | 第2010回   | 眼前に蘇る古今のローマの情景 そして人々の息遣い        | 一般                | ユースチケット           |
|            |                | 5/11(土) 6:00pm                                   | バンフィリ/戦いに生きて[日本初演]              | S ¥9,800 S ¥4,500 | A ¥8,400 A ¥4,000 |
|            |                | 5/12(日) 2:00pm                                   | レスピーギ/交響詩「ローマの松」                | B ¥6,700 B ¥3,300 | C ¥5,400 C ¥2,500 |
|            | NHKホール         | 指揮:ファビオ・ルイーゼ<br>※当初発表の曲順から変更となりました。              | D ¥4,400 D ¥1,800               | E ¥2,800 E ¥1,400 |                   |
| B          | 第2012回         | デンマーク国立響のシェフ ルイーゼがN響でニルセンを初披露                    | 一般                              | ユースチケット           |                   |
|            | 5/22(水) 7:00pm | ブラームス/ピアノ協奏曲 第1番 二短調 作品15                        | S ¥9,800 S ¥4,500               | A ¥8,400 A ¥4,000 |                   |
|            | 5/23(木) 7:00pm | ニルセン/交響曲 第2番 口短調 作品16「4つの気質」                     | B ¥6,700 B ¥3,300               | C ¥5,400 C ¥2,500 |                   |
|            | サントリーホール       | 指揮:ファビオ・ルイーゼ<br>ピアノ:ルドルフ・プフィンダー                  | D ¥4,400 D ¥1,800               | E ¥1,600 E ¥800   |                   |
| C          | 第2011回         | ルイーゼ&N響のメンデルスゾーン第2弾 《夏の夜の夢》&《宗教改革》               | 一般                              | ユースチケット           |                   |
|            | 5/17(金) 7:30pm | メンデルスゾーン「夏の夜の夢」の音楽                               | S ¥7,600 S ¥3,500               | A ¥6,700 A ¥3,000 |                   |
|            | 5/18(土) 2:00pm | —「序曲」「夜想曲」「スケルツォ」「結婚行進曲」                         | B ¥5,300 B ¥2,400               | C ¥4,300 C ¥1,900 |                   |
|            | NHKホール         | 指揮:ファビオ・ルイーゼ<br>メンデルスゾーン/交響曲 第5番 二短調 作品107「宗教改革」 | D ¥3,300 D ¥1,400               | E ¥1,600 E ¥800   |                   |
| 2024<br>06 | A              | 第2013回   | 盟友 原田と反田が誘う魅力あふれるスクリャーピンの世界     | 一般                | ユースチケット           |
|            |                | 6/8(土) 6:00pm                                    | スクリャーピン/夢想 作品24                 | S ¥9,100 S ¥4,000 | A ¥7,600 A ¥3,500 |
|            |                | 6/9(日) 2:00pm                                    | スクリャーピン/ピアノ協奏曲 嬰へ短調 作品20        | B ¥5,900 B ¥2,800 | C ¥4,800 C ¥2,100 |
|            | NHKホール         | 指揮:原田慶太楼<br>ピアノ:反田恭平                             | D ¥3,800 D ¥1,500               | E ¥2,000 E ¥1,000 |                   |
| B          | 第2015回         | 楽都ウィーンで生まれた古今の傑作を鈴木優人のタクトで聴く                     | 一般                              | ユースチケット           |                   |
|            | 6/19(水) 7:00pm | ウェーベルン/バツスカリア 作品1                                | S ¥9,800 S ¥4,500               | A ¥8,400 A ¥4,000 |                   |
|            | 6/20(木) 7:00pm | シェーンベルク/ヴァイオリン協奏曲 作品36                           | B ¥6,700 B ¥3,300               | C ¥5,400 C ¥2,500 |                   |
|            | サントリーホール       | 指揮:鈴木優人 ヴァイオリン:イザベル・ファウスト                        | D ¥4,400 D ¥1,800               | E ¥1,600 E ¥800   |                   |
| C          | 第2014回         | 定期初登場 沖澤のどかと臨む エスプリ溢れるフランス・プログラム                 | 一般                              | ユースチケット           |                   |
|            | 6/14(金) 7:30pm | イベール/寄港地   | S ¥7,600 S ¥3,500               | A ¥6,700 A ¥3,000 |                   |
|            | 6/15(土) 2:00pm | ラヴェル/左手のためのピアノ協奏曲                                | B ¥5,300 B ¥2,400               | C ¥4,300 C ¥1,900 |                   |
|            | NHKホール         | 指揮:沖澤のどか<br>ピアノ:デニス・コジュビン 女声合唱:東京混声合唱団*          | D ¥3,300 D ¥1,400               | E ¥1,600 E ¥800   |                   |

(料金はすべて税込)

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

# NHK交響楽団定期公演

## 2024-25シーズンプログラム(2024年9月～ 2025年6月)

### プログラムごとの特色

**A**  
プログラム

最高峰の指揮者、ソリストたちと  
本格的作品を贈るプログラム。

オーケストラ音楽の醍醐味を味わう。

**B**  
プログラム

豊かな響きのサントリーホールで味わう  
名匠たちの音作り。

豪華なソリストたちの至芸にも期待。

**C**  
プログラム

多彩なマエストロ、ソリストたちが  
屈指の名曲でその個性を輝かせる。

2時間のフル・プログラムで、交響曲と舞台音楽の“粋”を聴く。

### 2024-25シーズンについてのお知らせ

#### Bプログラム

◎本シーズンより日程を「木曜7:00pm / 金曜7:00pm」に変更させていただきます。

現在水曜日の定期会員の方は2024-25シーズンでは木曜日に、現在木曜日の方は金曜日に現在と同じ座席をご用意します。該当する定期会員の方への詳しいご案内は、2024-25シーズンの定期会員券更新手続きの際にお知らせします。

#### Cプログラム

◎本シーズンより「休憩あり・2時間程度」の公演とさせていただきます。

◎金曜日の開演時刻を7:00pmに変更させていただきます(土曜日は従来通り2:00pm開演)。

※出演者、曲目等の変更の場合があります。あらかじめご了承ください。

※料金、発売日等チケットの詳細は2024年3月末に発表予定です。

※公演に関する最新の情報は、N響ホームページでご確認ください。

# 2024-25定期公演プログラム

|            |          |  |  |
|------------|----------|--|--|
| 2024<br>09 | A        | 第2016回                                       | ブルックナー 芸術の金字塔(第8番)で新シーズン開幕<br>ブルックナー 生涯200年<br>ブルックナー / 交響曲 第8番 ハ短調 (第1稿 / 1887年)  |
|            |          | 9/14(土) 6:00pm<br>9/15(日) 2:00pm             |  |
|            | NHKホール   | 指揮:ファビオ・ルイーゼ                                 |  |
| 2024<br>10 | B        | 第2017回                                       | ルイーゼと遡る ドイツ・オーストリア 王道の系譜<br>シューベルト / イタリア風序曲 第2番 ハ長調 D. 591<br>シューマン / ピアノ協奏曲 イ短調 作品54<br>ベートーヴェン / 交響曲 第7番 イ長調 作品92                         |
|            |          | 9/19(木) 7:00pm<br>9/20(金) 7:00pm             |  |
|            | サントリーホール | 指揮:ファビオ・ルイーゼ ピアノ:エレヌ・グリモ                     |  |
| 2024<br>10 | C        | 第2018回                                       | 英国で評判の《白鳥の湖》を尾高忠明がN響で初披露<br>チャイコフスキー / ロココ風の主題による変奏曲 作品33(フィツェンハーゲン版)*<br>チャイコフスキー / バレエ音楽「白鳥の湖」作品20(抜粋)                                     |
|            |          | 9/27(金) 7:00pm<br>9/28(土) 2:00pm             |  |
|            | NHKホール   | 指揮:尾高忠明 チェロ:辻本 玲 (N響首席チェロ奏者)*                |  |
| 2024<br>10 | A        | 第2020回                                       | オネゲルとブラームスの暗き情熱の渦に身をゆだねる<br>オネゲル / 交響曲 第3番「礼拝」<br>ブラームス / 交響曲 第4番 ホ短調 作品98   |
|            |          | 10/19(土) 6:00pm<br>10/20(日) 2:00pm           |  |
|            | NHKホール   | 指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット                            |  |
| 2024<br>10 | B        | 第2019回                                       | ブロムシュテットが贈る北歐音楽の花東<br>シベリウス / 交響詩「4つの伝説」作品22-「トウオネラの白鳥」<br>ニルセン / クラリネット協奏曲 作品57<br>ベルナルド / 交響曲 第4番 変ホ長調「ナイヴ」                                |
|            |          | 10/10(木) 7:00pm<br>10/11(金) 7:00pm           |  |
|            | サントリーホール | 指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット クラリネット:伊藤 圭 (N響首席クラリネット奏者) |  |
| 2024<br>10 | C        | 第2021回                                       | ブロムシュテットに導かれて挑む シューベルト最高峰の交響曲2作<br>シューベルト / 交響曲 第7番 短調 D. 759「未完成」<br>シューベルト / 交響曲 第8番 ハ長調 D. 944「ザ・グレート」                                    |
|            |          | 10/25(金) 7:00pm<br>10/26(土) 2:00pm           |  |
|            | NHKホール   | 指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット                            |  |
| 2024<br>11 | A        | 第2022回                                       | 山田和樹 N響定期に凱旋! お家芸のレパートリーを披露<br>ルーセル / バレエ音楽「パッカスとアリアーヌ」作品43-組曲 第1番<br>バルトーク / ピアノ協奏曲 第3番<br>ラヴェル / 優雅で感傷的なワルツ<br>ドビュッシー / 管弦楽のための「映像」-「イペリア」 |
|            |          | 11/9(土) 6:00pm<br>11/10(日) 2:00pm            |  |
|            | NHKホール   | 指揮:山田和樹 ピアノ:フランチェスコ・ビエモンテージ                  |  |
| 2024<br>11 | B        | 第2024回                                       | 透徹した音楽性が際立つスロボデニューク 母国ロシアの作品で定期初登場<br>チャイコフスキー / ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35<br>プロコフィエフ / バレエ音楽「石の花」-「銅山の女王」結婚組曲<br>ストラヴィンスキー / 3楽章の交響曲               |
|            |          | 11/21(木) 7:00pm<br>11/22(金) 7:00pm           |  |
|            | サントリーホール | 指揮:ディマ・スロボデニューク ヴァイオリン:ニキータ・ボリソグレブスキー        |  |
| 2024<br>11 | C        | 第2023回                                       | 世界を席卷するオロスコ・エストラーダ 満を持してN響初登場<br>ワーグナー / 歌劇「タンホイザー」序曲<br>ヴァインベルク / トランペット協奏曲 変ロ長調 作品94<br>ショスタコーヴィチ / 交響曲 第5番 二短調 作品47                       |
|            |          | 11/15(金) 7:00pm<br>11/16(土) 2:00pm           |  |
|            | NHKホール   | 指揮:アンドレス・オロスコ・エストラーダ トランペット:ラインホルト・フリードリヒ    |  |

|            |   | A NHKホール  |  | B サントリーホール  |  | C NHKホール                               |  |
|------------|---|---|--|---|--|--|--|
|            |   | 開場5:00pm 開演6:00pm<br>開場1:00pm 開演2:00pm  |  | 開場6:20pm 開演7:00pm<br>開場6:20pm 開演7:00pm  |  | 開場6:00pm 開演7:00pm<br>開場1:00pm 開演2:00pm |  |
| 2024<br>12 | A | 第2025回<br>11/30(土) 6:00pm<br>12/1(日) 2:00pm<br>※12月定期公演Aプログラム1日目は11月に開催いたします。 |  | ドイツ・ロマン主義の複郁たる香気に包まれる<br>シェーンベルク生誕150年<br>ワーグナー／楽劇「トリスタンとイゾルデ」―「前奏曲と愛の死」<br>R. シュトラウス／「ばらの花輪」作品36-1*、<br>「なつかしいおもかげ」作品48-1*、「森の喜び」作品49-1*、<br>「心安らかに」作品39-4*、「あすの朝」作品27-4*<br>シェーンベルク／交響詩「ベレアスとメリザンド」作品5<br>指揮：ファビオ・ルイーゼ ソプラノ：クリスティアーネ・カルク* |  |  |  |
|            | B | 第2026回<br>12/5(木) 7:00pm<br>12/6(金) 7:00pm                                    |  | ルイーゼが屈指の名曲で振り起こす スラヴ音楽の魅力<br>スメタナ／歌劇「売られた花嫁」序曲<br>ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第3番 二短調 作品30<br>ムソルグスキー(ラヴェル編)／組曲「展覧会の絵」<br>指揮：ファビオ・ルイーゼ ピアノ：ネルソン・ゲルナー  |  |  |  |
|            | C | 第2027回<br>12/13(金) 7:00pm<br>12/14(土) 2:00pm                                  |  | 《一千人の交響曲》に続くルイーゼ&N響の「ファウスト」シリーズ<br>リスト／交響詩「タッソー」<br>リスト／ファウスト交響曲*<br>指揮：ファビオ・ルイーゼ テノール：ジェームズ・マッコークル* 合唱：東京オペラシンガーズ*   |  |  |  |
| 2025<br>01 | A | 第2028回<br>1/18(土) 6:00pm<br>1/19(日) 2:00pm                                    |  | ソヒエフが《レニングラード交響曲》に万感の思いを込める<br>ショスタコヴィチ／交響曲 第7番 八長調 作品60「レニングラード」<br>指揮：トウガン・ソヒエフ   |  |  |  |
|            | B | 第2030回<br>1/30(木) 7:00pm<br>1/31(金) 7:00pm                                    |  | 音の魔術師のタクトが紡ぎだす 東欧の情緒に身をゆだねる<br>ムソルグスキー(リヤード編)／歌劇「ソロチンスクの市」―「序曲」「ゴバック」<br>バルトーク／ヴァイオリン協奏曲 第2番<br>ドヴォルザーク／交響曲 第8番 十長調 作品88<br>指揮：トウガン・ソヒエフ ヴァイオリン：郷古 廉(N響ゲスト・コンサートマスター)   |  |  |  |
|            | C | 第2029回<br>1/24(金) 7:00pm<br>1/25(土) 2:00pm                                    |  | 世紀を超えて受け継がれる “古典”の精神<br>ストラヴィンスキー／組曲「フルネツラ」<br>ブラームス／交響曲 第1番 八短調 作品68<br>指揮：トウガン・ソヒエフ   |  |  |  |
| 2025<br>02 | A | 第2031回<br>2/8(土) 6:00pm<br>2/9(日) 2:00pm                                      |  | チェコが生んだ新時代の巨匠ボベルカがN響デビュー<br>ツェムリンスキー／シンフォニエッタ 作品23<br>R. シュトラウス／ホルン協奏曲 第1番 変ホ長調 作品11<br>ドヴォルザーク／交響詩「のぼと」作品110<br>ヤナーチェク／シンフォニエッタ<br>指揮：ベトル・ボベルカ ホルン：ラデク・ハボラーク   |  |  |  |
|            | B | 第2032回<br>2/13(木) 7:00pm<br>2/14(金) 7:00pm                                    |  | 世界の音楽界が熱視線を注ぐ 若き巨匠によるドイツ・プログラム<br>モーツァルト／アリア「私は行く、だがどこへ」K.583*、アリア「大いなる魂と高貴な心は」K. 578*、<br>交響曲 第25番 十短調 K. 183、レチタティヴとアリア「私のうろわしい恋人よ、さようなら<br>―とどまって下さい、ああいとしい人よ」K. 528*<br>シューマン／交響曲 第1番 変ホ長調 作品38<br>指揮：ベトル・ボベルカ ソプラノ：エマ・ニコロフスカ*          |  |  |  |
|            | C | 第2033回<br>2/21(金) 7:00pm<br>2/22(土) 2:00pm                                    |  | 下野竜也が誘うオペレッタ名旋律の世界<br>スッペ／喜歌劇「軽騎兵」序曲<br>サン・サーンス／ヴァイオリン協奏曲 第3番 口短調 作品61<br>スッペ／喜歌劇「詩人と農夫」序曲<br>オッフエンバック(ロザンタール編)／バレエ音楽「ハリの喜び」(抜粋)<br>指揮：下野竜也 ヴァイオリン：三浦文彰   |  |  |  |

|            |   |   |   |
|------------|---|---|---|
| 2025<br>04 | A | <p>第2034回</p> <p>4/12(土) 6:00pm<br/>4/13(日) 2:00pm</p> <p>NHKホール</p>  | <p>通底するテーマは「さすらい人」 パーヴォが贈るベルリオーズとプロコフィエフ<br/>ベルリオーズ／交響曲「イタリアのハロルド」*<br/>プロコフィエフ／交響曲 第4番 ハ長調 作品112(改訂版／1947年)</p> <p>指揮:パーヴォ・ヤルヴィ ヴォオラ:アントワヌ・タメスティ*</p>  |
|            | B | <p>第2035回</p> <p>4/17(木) 7:00pm<br/>4/18(金) 7:00pm</p> <p>サントリーホール</p>  | <p>《春の祭典》に続きパーヴォ&amp;N響が贈る ストラヴィンスキー三大バレエ第2弾<br/>ストラヴィンスキー／バレエ音楽「ペトルーシカ」(全曲／1947年版)<br/>フリテン／ピアノ協奏曲 作品13<br/>プロコフィエフ／交響組曲「3つのオレンジへの恋」作品33bis</p> <p>指揮:パーヴォ・ヤルヴィ ピアノ:ベンジャミン・グローヴァー</p>                |
|            | C |   | 4月Cプログラムはヨーロッパ公演のため休止させていただきます  |
| 2025<br>05 | A | <p>第2036回</p> <p>4/26(土) 6:00pm<br/>4/27(日) 2:00pm</p> <p><small>※5月定期公演Aプログラムは<br/>4月に開催いたします。</small></p> <p>NHKホール</p> | <p>2025年5月ヨーロッパ公演に先駆け 勝負曲を定期公演で披露<br/>マーラー／交響曲 第3番 二短調</p> <p>指揮:ファビオ・ルイーゼ メゾ・ソプラノ:オレシア・ベトロヴァ<br/>女声合唱:東京オペラシンガーズ 児童合唱:NHK東京児童合唱団</p>   |
|            | B | <p>第2037回</p> <p>5/1(木) 7:00pm<br/>5/2(金) 7:00pm</p> <p>サントリーホール</p>  | <p>軋みあう“生と死”を超克し その彼方の光へ<br/>ベルク／ヴァイオリン協奏曲<br/>マーラー／交響曲 第4番 長調*</p> <p>指揮:ファビオ・ルイーゼ ヴァイオリン:諏訪内晶子 ソプラノ:森 麻季*</p>   |
|            | C | <p>第2038回</p> <p>5/30(金) 7:00pm<br/>5/31(土) 2:00pm</p> <p>NHKホール</p>  | <p>オペラ指揮者シュレキエーテのR. シュトラウス! N響定期初登場、藤田真央にも注目!<br/>シューベルト／「ロザムンデ」序曲<br/>ドホナーニ／童謡(きらきら星)の主題による変奏曲 作品25*<br/>R. シュトラウス／歌劇「影のない女」による交響的幻想曲<br/>R. シュトラウス／歌劇「ばらの騎士」組曲</p> <p>指揮:ギエドレ・シュレキエーテ ピアノ:藤田真央*</p> |
| 2025<br>06 | A | <p>第2039回</p> <p>6/7(土) 6:00pm<br/>6/8(日) 2:00pm</p> <p>NHKホール</p>  | <p>巨匠が魂を込めて振る チャイコフスキー最後の交響曲<br/>リムスキー・コルザコフ／歌劇「5月の夜」序曲<br/>ラフマニノフ／パガニーニの主題による狂詩曲 作品43*<br/>チャイコフスキー／交響曲 第6番 口短調 作品74「悲愴」</p> <p>指揮:ウラディーミル・フェドセーエフ ピアノ:ユリアンナ・アヴデーエワ*</p>                             |
|            | B | <p>第2040回</p> <p>6/12(木) 7:00pm<br/>6/13(金) 7:00pm</p> <p>サントリーホール</p>  | <p>チェリビダッケの直弟子メナのブルックナー(第6番)<br/>イベール／フルート協奏曲<br/>ブルックナー／交響曲 第6番 イ長調</p> <p>指揮:ファンホ・メナ フルート:カール・ハインツ・シュッツ</p>   |
|            | C | <p>第2041回</p> <p>6/20(金) 7:00pm<br/>6/21(土) 2:00pm</p> <p>NHKホール</p>  | <p>2000年生まれの新超新星 ベルトコスキのマーラー「巨人」<br/>コルンゴルト／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35<br/>マーラー／交響曲 第1番 二長調「巨人」</p> <p>指揮:タルモ・ベルトコスキ ヴァイオリン:ダニエル・ロザコヴィッチ</p>  |

※今後の状況によっては、出演者や曲目等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

# 特別公演

3/9(土) 4:00pm | N響 大河ドラマ&名曲コンサート

東京芸術劇場 コンサートホール

指揮:キンポー・イシイ ヴァイオリン:三浦文彰\* 特別ゲスト:高橋英樹 ゲスト:坂田晃一 ナビゲーター:山田美也子

[第1部 大河ドラマ編]

黄金の日日(1978/池辺晋一郎)

どうする家康(2023/稲本 響)

春の坂道(1971/三善 晃)

国盗り物語(1973/林 光)

花神(1977/林 光)

山河燃ゆ(1984/林 光)

おんな太閤記(1981/坂田晃一)

いのち(1986/坂田晃一)

真田丸(2016/服部隆之)\*

光る君へ(2024/冬野ユミ)

[第2部 「河」「川」にちなんだクラシック名曲選]

ヴィヴァルディ/「四季」—「春」\*

スメタナ/交響詩「モルダウ」

J. シュトラウスII世/ワルツ「美しく青きドナウ」作品314

料金(税込):一般 | S席9,000円 A席8,000円 B席7,000円 C席6,000円

ユースチケット(25歳以下) | S席4,500円 A席4,000円 B席3,500円 C席3,000円

チケット発売中

※定期会員は一般料金の10%割引

主催:NHK交響楽団 後援:豊島区

お問合せ:N響ガイド TEL (0570) 02-9502

お申し込み

WEBチケットN響

<https://nhkso.pia.jp>



N響ガイド | TEL 0570-02-9502

営業時間:10:00am ~ 5:00pm

定休日:土・日・祝日

●主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am ~ 開演時刻まで営業

●発売初日の土・日・祝日は10:00am ~ 3:00pm の営業

●電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

## 各地の公演

2/18(日) 4:30pm | NHK交響楽団特別公演 パブロ・エラス・カサド&牛田智大

RaiBoC Hallレイボックホール(市民会館おおみや)大ホール

指揮:パブロ・エラス・カサド ピアノ:牛田智大

ベートーヴェン/序曲「コリオラン」作品62

モーツァルト/ピアノ協奏曲 第24番 ハ短調 K. 491

ベートーヴェン/交響曲 第5番 ハ短調 作品67

主催:(公財)さいたま市文化振興事業団

お問合せ:RaiBoC Hallレイボックホール(市民会館おおみや) TEL (048) 641-6131

2/21(水) 7:00pm | 2024都民芸術フェスティバル参加公演 オーケストラ・シリーズ No. 55

東京芸術劇場コンサートホール

指揮:沼尻竜典 チェロ:カミーユ・トマ

ドヴォルザーク/スラヴ舞曲 第1集-第1番 ハ長調 作品46-1

ドヴォルザーク/チェロ協奏曲 口短調 作品104

シューマン/交響曲 第1番 変ロ長調 作品38「春」

主催・お問合せ:(公社)日本演奏連盟 TEL (03) 3539-5131

2/22(木) 7:00pm | NHK交響楽団演奏会 松本公演

キッセイ文化ホール(長野県松本文化会館)

出演者・曲目は2月21日と同じ

主催:NHK長野放送局、NHK交響楽団

お問合せ:ハローダイヤル TEL (050) 5541-8600

2/24(土) 3:00pm | NHK交響楽団演奏会 新潟公演

新潟市民芸術文化会館 りゅーとびあ

出演者・曲目は2月21日と同じ

主催:NHK新潟放送局、NHK交響楽団

お問合せ:ハローダイヤル TEL (050) 5541-8600

2/25(日) 5:00pm | 【中止】NHK交響楽団金沢特別公演

金沢歌劇座

本公演は能登半島地震の影響により中止となりました。

※チケットの払い戻しについては主催の「サンライズプロモーション東京」のホームページ(<https://sunrisetokyo.com/detail/24336/>)でご確認ください。

主催:石川テレビ、北陸中日新聞、サンライズプロモーション東京

---

### 3/1(金) 7:00pm | NHK交響楽団 パルテノン多摩演奏会

---

#### パルテノン多摩 大ホール

---

指揮:アンドレアス・オッテンザマー クラリネット:ダニエル・オッテンザマー\*

～オール・ブラームス・プログラム～

ブラームス／大学祝典序曲 作品80

ブラームス(コンツ編)／クラリネット・ソナタ 第2番 変ホ長調 作品120-2\*

ブラームス／ハイドンの主題による変奏曲 作品56a

ブラームス／ハンガリー舞曲集—第1番、第3番、第4番、第6番

ブラームス／ワルツ 作品39-15\*

ブラームス／ワルツ集「愛の歌」作品52—第6曲「かわいらしい小鳥が」\*

ブラームス(コンツ編)／ハンガリー舞曲集—第7番\*

ブラームス／ハンガリー舞曲集—第2番、第5番

※当初発表の出演者・曲目から変更になりました。

主催:パルテノン多摩共同事業体

お問合せ:パルテノン多摩 TEL (042) 376-8181

---

---

### 3/3(日) 3:00pm | 成田市制施行70周年記念 NHK交響楽団 成田公演

---

#### 成田国際文化会館 大ホール

---

出演者・曲目は3月1日と同じ

主催:成田市

お問合せ:成田市シティプロモーション部文化国際課 TEL (0476) 20-1534

---

---

### 3/10(日) 5:00pm | N響 大河ドラマ&名曲コンサート

---

#### ハーモニーホールふくい大ホール

---

指揮:キンボー・イシイ ヴァイオリン:三浦文彰\* ゲスト:坂田晃一 ナビゲーター:山田美也子

黄金の日日(1978/池辺晋一郎)

どうする家康(2023/稲本 響)

春の坂道(1971/三善 晃)

国盗り物語(1973/林 光)

花神(1977/林 光)

山河燃ゆ(1984/林 光)

おんな太閤記(1981/坂田晃一)

いのち(1986/坂田晃一)

真田丸(2016/服部隆之)\*

光る君へ(2024/冬野ユミ)

ヴィヴァルディ/「四季」—「春」\*

スメタナ/交響詩「モルダウ」

J.シュトラウスII世/ワルツ「美しく青きドナウ」作品314

主催:(公財)福井県文化振興事業団

お問合せ:ハーモニーホールふくいチケットセンター TEL (0776) 38-8282

---



3/27(水) 3:00pm

東京春祭ワーグナー・シリーズ vol. 15

3/30(土) 3:00pm

《トリスタンとイゾルデ》(演奏会形式/字幕付)

東京文化会館 大ホール

指揮:マレク・ヤノフスキ トリスタン:スチュアート・スケルトン 国王マルク:フランツ・ヨーゼフ・ゼーリヒ

イゾルデ:ビルギッテ・クリステンセン クルヴェナール:マルクス・アイヒェ メロート:甲斐栄次郎

ブランゲーネ:ルクサンドラ・ドノーセ 牧童:大槻孝志 かじとり:高橋洋介 若い水夫:金山京介

合唱:東京オペラシンガーズ

ワーグナー/楽劇「トリスタンとイゾルデ」(全3幕)(演奏会形式/字幕付)

主催:東京・春・音楽祭実行委員会

共催:NHK交響楽団

お問合せ:東京・春・音楽祭サポートデスク TEL(050) 3496-0202

4/7(日) 3:00pm | The 20th Anniversary ワーグナー『ニーベルングの指環』ガラ・コンサート

東京文化会館 大ホール

指揮:マレク・ヤノフスキ ウォータン:マルクス・アイヒェ

ローゲ/ジークムント/ジークフリート:ヴィンセント・ウォルフシュタイナー フリッカ:杉山由紀

ウォークリンデ:富平安希子 ウェルグンデ:秋本悠希 フロースヒルデ:金子美香

ジークリンデ:エレーナ・パンクラトヴァ 森の鳥:中畑有美子(ソプラノ) ブリュンヒルデ:エレーナ・パンクラトヴァ ほか

ワーグナー/楽劇「ニーベルングの指環」より

「ラインの黄金」—第4場「城へと歩む橋は……」~第4場フィナーレ

「ワルキューレ」—第1幕 第3場「父は誓った 俺がひと振りの剣を見出すと……」~第1幕フィナーレ

「ジークフリート」—第2幕「森のささやき」~フィナーレ、第2場「あいつが父親でないとはうれしくてたまらない」、

第3場「親切な小鳥よ 教えてくれ……」

「神々のたそがれ」—第3幕 第3場 ブリュンヒルデの自己犠牲「わが前に 硬い薪を積み上げよ……」

主催:東京・春・音楽祭実行委員会

共催:NHK交響楽団

お問合せ:東京・春・音楽祭サポートデスク TEL(050) 3496-0202

5/3(金祝) 3:30pm | N響 ゴールデン・クラシック 2024

東京文化会館 大ホール

指揮:坂入健司郎 ヴァイオリン:木嶋真優

ハチャトゥリアン/ヴァイオリン協奏曲 二短調

ショスタコーヴィチ/交響曲 第5番 二短調 作品47

主催:MIYAZAWA & Co.

お問合せ:サンライズプロモーション東京 TEL (0570) 00-3337

6/23(日) 2:00pm | 鈴木優人×イザベル・ファウスト NHK交響楽団 in Chofu

調布市グリーンホール 大ホール

指揮:鈴木優人 ヴァイオリン:イザベル・ファウスト

ベートーヴェン/ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品61

バッハ(ウェーベルン編)/リチエルクォータ

シューベルト/交響曲 第5番 変ロ長調 D. 485

主催:(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団、調布市

お問合せ:チケットCHOFU TEL(042) 481-7222

---

**6/29** 4:00pm | **井上道義指揮 NHK交響楽団演奏会 ヴァイオリン:服部百音**

サントリーホール

---

指揮:井上道義 ヴァイオリン:服部百音

ショスタコーヴィチ／ヴァイオリン協奏曲 第1番 イ短調 作品77

ロッシニー／歌劇「ブルスキオー氏」序曲

ショスタコーヴィチ／ヴァイオリン協奏曲 第2番 嬰ハ短調 作品129

主催・お問合せ:サンライズプロモーション東京 TEL (0570) 00-3337

---

---

**6/30** 4:00pm | **井上道義指揮 NHK交響楽団演奏会 ヴァイオリン:服部百音**

フェスティバルホール

---

出演者・曲目は6月29日と同じ

主催:サンライズプロモーション東京

お問合せ:キョードーインフォメーション TEL (0570) 200-888

---

---

**オーチャード定期**

---

横浜みなとみらいホール 大ホール

---

**3/2** 3:30pm

---

出演者・曲目は3月1日と同じ

---

オーチャードホール

---

**4/29** 3:30pm

---

指揮:クリストフ・エッセンバッハ ヴァイオリン:岡本誠司

シューマン／ヴァイオリン協奏曲 二短調

ブラームス／交響曲 第2番 二長調 作品73

主催・お問合せ:Bunkamura TEL (03) 3477-3244

---

# 特別支援・特別協力・賛助会員

## Corporate Membership

### 特別支援

|              |                |
|--------------|----------------|
| 岩谷産業株式会社     | 代表取締役社長   間島 寛 |
| 三菱地所株式会社     | 執行役社長   中島 篤   |
| 株式会社 みずほ銀行   | 頭取   加藤勝彦      |
| 公益財団法人 渋谷育英会 | 理事長   小丸成洋     |

### 特別協力

|             |                              |
|-------------|------------------------------|
| BMW ジャパン    | 代表取締役社長   Christian Wiedmann |
| 全日本空輸株式会社   | 代表取締役社長   井上慎一               |
| ヤマハ株式会社     | 代表執行役社長   中田卓也               |
| 株式会社 パレスホテル | 代表取締役社長   吉原大介               |
| びあ株式会社      | 代表取締役社長   矢内 廣               |

### 賛助会員

|  |  |  |
|--|--|--|
| ・ 常陸宮                                      | ・ アットホーム(株)<br>代表取締役社長   鶴森康史          | ・ SCSK(株)<br>代表取締役 執行役員 社長   當麻隆昭      |
| ・ (株)アートレイ<br>代表取締役   小森活美                 | ・ イーソリューションズ(株)<br>代表取締役社長   佐々木経世     | ・ (株)NHK アート<br>代表取締役社長   平田恭佐         |
| ・ 相川直樹                                     | ・ EY新日本有限責任監査法人<br>理事長   片倉正美          | ・ NHK 営業サービス(株)<br>代表取締役社長   長村 中      |
| ・ (株)アイン<br>取締役社長   吉田守孝                   | ・ (株)井口一世<br>代表取締役   井口一世              | ・ (株)NHK エデュケーショナル<br>代表取締役社長   荒木美弥子  |
| ・ (株)アインホールディングス<br>代表取締役社長   大谷喜一         | ・ 池上通信機(株)<br>代表取締役社長   清森洋祐           | ・ (株)NHK エンタープライズ<br>代表取締役社長   有吉伸人    |
| ・ 葵設備工事(株)<br>代表取締役社長   安藤正明               | ・ 伊東国際特許事務所<br>所長   伊東忠重               | ・ (学)NHK 学園<br>理事長   等々力 健             |
| ・ (株)あ佳音<br>代表取締役社長   遠山信之                 | ・ 井村屋グループ(株)<br>代表取締役会長(CEO)   中島伸子    | ・ (株)NHK グローバルメディアサービス<br>代表取締役   傍田賢治 |
| ・ AXL.BIT(株)<br>代表取締役社長   長谷川章博            | ・ (有)IL VIOLINO MAGICO<br>代表取締役   山下智之 | ・ (株)NHK 出版<br>代表取締役社長   松本浩司          |
| ・ アサヒグループホールディングス(株)<br>代表取締役社長兼CEO   勝木敦志 | ・ (株)インターネットイニシアティブ<br>代表取締役会長   鈴木幸一  | ・ (株)NHK テクノロジーズ<br>代表取締役社長   野口周一     |
| ・ (株)朝日工業社<br>代表取締役社長   高須康有               | ・ 内 聖美                                 | ・ (株)NHK ビジネスクリエイト<br>代表取締役社長   石原 勉   |
| ・ 朝日信用金庫<br>理事長   伊藤康博                     | ・ SMBC 日興証券(株)<br>代表取締役社長   近藤雄一郎      | ・ (株)NHK プロモーション<br>代表取締役社長   有吉伸人     |
| ・ 有限責任 あずさ監査法人<br>理事長   山田裕行               |  |  |

- ・(株)NHK文化センター  
代表取締役社長 | 南出貴弘
- ・(株)NTTドコモ  
代表取締役社長 | 井伊基之
- ・(株)NTTファシリティーズ  
代表取締役社長 | 松原和彦
- ・ENEOS ホールディングス(株)
- ・荏原冷熱システム(株)  
代表取締役 | 庄野 道
- ・(株)エレクトク  
代表取締役 | 間部恵造
- ・大崎電気工業(株)  
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・大塚ホールディングス(株)  
代表取締役社長兼CEO | 樋口達夫
- ・(株)大林組  
代表取締役 | 蓮輪賢治
- ・オールニッポンヘリコプター(株)  
代表取締役社長 | 柳川 淳
- ・岡崎悦子
- ・岡崎耕治
- ・小田急電鉄(株)  
取締役社長 | 星野晃司
- ・カシオ計算機(株)  
代表取締役社長CEO兼CHRO  
増田裕一
- ・鹿島建設(株)  
代表取締役社長 | 天野裕正
- ・(株)加藤電気工業所  
代表取締役 | 加藤浩章
- ・(株)金子製作所  
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチュア・エンタテインメント(株)  
代表取締役 社長執行役員 | 中西一雄
- ・(株)関電工  
取締役社長 | 仲摩俊男
- ・(株)かんぼ生命保険  
取締役兼代表執行役社長 | 谷垣邦夫
- ・キッコーマン(株)  
代表取締役社長CEO | 中野祥三郎
- ・(株)CURIOUS PRODUCTIONS  
代表取締役 | 黒川幸太郎
- ・(株)教育芸術社  
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス  
代表取締役 | 半田 充
- ・(株)共同通信会館  
代表取締役専務 | 梅野 修
- ・(一社)共同通信社  
社長 | 水谷 亨
- ・キリンホールディングス(株)  
代表取締役社長 | 磯崎功典
- ・(学)国立音楽大学  
理事長 | 重盛次正
- ・京王電鉄(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
都村智史
- ・京成電鉄(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
小林敏也
- ・KDDI(株)  
代表取締役社長 | 高橋 誠
- ・(医)社団 恒仁会  
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)構造計画研究所  
代表執行役社長 | 渡邊太門
- ・(株)コーポレートディレクション  
代表取締役 | 小川達大
- ・小林弘侑
- ・佐川印刷(株)  
代表取締役会長 | 木下宗昭
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)  
代表取締役 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ  
代表取締役 | 富田佳佑
- ・サントリーホールディングス(株)  
代表取締役社長 | 新浪剛史
- ・(株)ジェイ・ウィル・コーポレーション  
代表取締役 | 佐藤雅典
- ・JCOM(株)  
代表取締役社長 | 岩木陽一
- ・(株)シグマクシス・ホールディングス  
取締役会長兼取締役会議長 | 富村隆一
- ・(株)ジャパン・アーツ  
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)集英社  
代表取締役社長 | 廣野眞一
- ・(株)小学館  
代表取締役社長 | 相賀信宏
- ・(株)商工組合中央金庫  
代表取締役社長 | 関根正裕
- ・庄司勇次朗・恵子
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ  
代表取締役 | 白川亜弥
- ・新赤坂クリニック青山  
院長 | 松木隆央
- ・信越化学工業(株)  
代表取締役社長 | 斉藤恭彦
- ・新菱冷熱工業(株)  
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・(株)スカパーJSATホールディングス  
代表取締役社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原  
代表取締役 | 古江訓雄
- ・スズキ(株)  
代表取締役社長 | 鈴木俊宏
- ・友友商事(株)  
代表取締役社長執行役員 CEO  
兵頭誠之
- ・友友電気工業(株)  
社長 | 井上 治
- ・セイコーグループ(株)  
代表取締役会長兼グループCEO  
兼グループCCO | 服部真二
- ・聖徳大学  
学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道(株)  
代表取締役社長 | 小川周一郎
- ・清和綜合建物(株)  
代表取締役社長 | 大串桂一郎
- ・関閩商事(株)  
代表取締役会長 | 関 正夫
- ・(株)セノン  
代表取締役 | 稲葉 誠
- ・(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント  
代表取締役社長CEO | 村松俊亮
- ・損害保険ジャパン(株)  
取締役社長 | 白川儀一
- ・第一三共(株)  
代表取締役会長兼CEO | 眞鍋 淳
- ・第一生命保険(株)  
代表取締役社長 | 隅野俊亮
- ・ダイキン工業(株)  
取締役社長 | 十河政則
- ・大成建設(株)  
代表取締役社長 | 相川善郎

- ・大日コーポレーション(株)  
代表取締役社長兼グループCEO  
鈴木忠明
- ・高砂熱学工業(株)  
代表取締役社長 | 小島和人
- ・(株)ダク  
代表取締役 | 福田浩二
- ・(株)竹中工務店  
取締役執行役員社長 | 佐々木正人
- ・田中貴金属工業(株)  
代表取締役社長執行役員  
田中浩一朗
- ・田中進
- ・田原昇
- ・チャンネル銀河(株)  
代表取締役会長兼社長 | 古谷太郎
- ・中央日本土地建物グループ(株)  
代表取締役社長 | 三宅 潔
- ・中外製薬(株)  
代表取締役社長 | 奥田 修
- ・テルウェル東日本(株)  
代表取締役社長 | 石川 達
- ・(株)電通  
代表取締役 社長執行役員 | 佐野 傑
- ・(株)テンポプリモ  
代表取締役 | 中村聡武
- ・東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)  
代表取締役会長 | 石田建昭
- ・東海旅客鉄道(株)  
代表取締役社長 | 丹波俊介
- ・東急(株)  
取締役社長 | 堀江正博
- ・(株)東急コミュニティー  
代表取締役社長 | 木村昌平
- ・(株)東急文化村  
代表取締役 | 嶋田 創
- ・東京海上日動火災保険(株)  
取締役社長 | 広瀬伸一
- ・(株)東京交通会館  
取締役社長 | 興野敦郎
- ・東信地所(株)  
代表取締役 | 堀川利通
- ・東武鉄道(株)  
取締役社長 | 都筑 豊
- ・桐朋学園大学  
学長 | 辰巳明子
- ・東邦ホールディングス(株)  
代表取締役 | 有働 敦
- ・(株)東北新社  
代表取締役社長 | 小坂恵一
- ・鳥取末広座(株)  
代表取締役 | 西川八重子
- ・(-財)凸版印刷三幸会  
代表理事 | 金子真吾
- ・トヨタ自動車(株)  
代表取締役社長 | 佐藤恒治
- ・内外施設工業グループホールディングス(株)  
代表取締役社長 | 林 克昌
- ・中銀グループ  
代表 | 渡辺藏人
- ・日興アセットマネジメント(株)  
会長 | 西田 豊
- ・日鉄興和不動産(株)  
代表取締役社長 | 三輪正浩
- ・日東紡績(株)  
取締役 代表執行役員社長 | 辻 裕一
- ・(株)日本アーティスト  
代表取締役 | 幡野菜穂子
- ・日本ガイシ(株)  
取締役社長 | 小林 茂
- ・(株)日本カストディ銀行  
代表取締役社長 | 土屋正裕
- ・(株)日本国際放送  
代表取締役社長 | 高尾 潤
- ・日本運通(株)  
代表取締役社長 | 堀切 智
- ・日本電気(株)  
代表取締役執行役員社長 | 森田隆之
- ・(-財)日本放送協会共済会  
理事長 | 谷弘聡史
- ・日本みらいホールディングス(株)  
代表取締役 | 安嶋 明
- ・日本郵政(株)  
取締役兼代表執行役員社長 | 増田寛也
- ・(株)ニフコ  
取締役会長 | 山本利行
- ・野田浩一
- ・野村ホールディングス(株)  
代表執行役員社長 | 奥田健太郎
- ・パナソニック ホールディングス(株)  
代表取締役 社長執行役員 グループCEO  
楠見雄規
- ・(株)原田武夫国際戦略情報研究所  
代表取締役 | 原田武夫
- ・(有)バルフェ  
代表取締役 | 伊藤良彦
- ・びあ(株)  
代表取締役社長 | 矢内 廣
- ・東日本電信電話(株)  
代表取締役社長 | 澁谷直樹
- ・(株)日立製作所  
執行役員社長 | 小島啓二
- ・(株)フォトロン  
代表取締役 | 瀧水 隆
- ・福田三千男
- ・富士通(株)  
代表取締役社長 | 時田隆仁
- ・富士通フロンテック(株)  
代表取締役社長 | 渡部広史
- ・古川建築音響研究所  
所長 | 古川宣一
- ・ペプテドリーム(株)  
代表取締役社長 CEO | リード・バトリック
- ・(株)朋栄ホールディングス  
代表取締役 | 清原克明
- ・(株)放送衛星システム  
代表取締役社長 | 角 英夫
- ・(公)放送文化基金  
理事長 | 濱田純一
- ・ホクト(株)  
代表取締役社長 | 水野雅義
- ・(株)ポケモン  
代表取締役社長 | 石原恒和
- ・前田工織(株)  
代表取締役社長兼COO | 前田尚宏
- ・牧 寛之
- ・町田優子
- ・丸紅(株)  
代表取締役社長 | 柿木真澄
- ・溝江建設(株)  
代表取締役社長 | 溝江 弘
- ・三井住友海上火災保険(株)  
代表取締役 | 舩曳真一郎
- ・(株)三井住友銀行  
頭取 | 福留朗裕
- ・三井住友信託銀行(株)  
取締役社長 | 大山一也

- ・三菱商事(株)  
代表取締役社長 | 中西勝也
- ・三菱電機(株)  
執行役社長 | 漆間 啓
- ・(株)緑山スタジオ・シティ  
代表取締役社長 | 永田周太郎
- ・三橋産業(株)  
代表取締役会長 | 三橋洋之
- ・三原穂積
- ・(株)ミロク情報サービス  
代表取締役社長 | 是枝周樹
- ・(学)武蔵野音楽学園 武蔵野音楽大学  
理事長 | 福井直敬
- ・(株)明治  
代表取締役社長 | 松田克也
- ・(株)明電舎  
執行役員社長 | 井上晃夫
- ・メットライフ生命保険(株)  
取締役 代表執行役 副社長 | 伊地知 剛
- ・(株)目の眼  
社主 | 櫻井 恵

- ・(株)モメンタム ジャパン  
代表取締役社長 | 三溝広志
- ・森ビル(株)  
代表取締役社長 | 辻 慎吾
- ・森平舞台機構(株)  
代表取締役 | 森 健輔
- ・矢下茂雄
- ・山田産業(株)  
代表取締役 | 山田裕幸
- ・(株)山野楽器  
代表取締役社長 | 山野政彦
- ・(株)ヤマハミュージックジャパン  
代表取締役社長 | 西村 淳
- ・ユニオンツール(株)  
代表取締役会長 | 片山貴雄
- ・米澤文彦
- ・(株)読売広告社  
代表取締役社長 | 菊地英之
- ・(株)読売旅行  
代表取締役社長 | 貞広貴志

- ・リコージャパン(株)  
代表取締役 社長執行役員 CEO  
笠井 徹
- ・料亭 三長  
代表 | 高橋千善
- ・(株)リンレイ  
代表取締役社長 | 鈴木信也
- ・(有)ルナ・エンタープライズ  
代表取締役 | 戸張誠二
- ・ROOM(株)  
代表取締役社長 社長執行役員  
松本 功
- ・YKアクロス(株)  
代表取締役社長 | 田淵浩記
- ・YCC(株)  
社長 | 中山武之
- ・渡辺敦郎・優子  
  
(五十音順、敬称略)

## NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしく願い申し上げます。

### 「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいております。当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

1. 会費：一口50万円(年間)
2. 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. 入会の特典：『フィルハーモニー』、『年間パンフレット』、『第9』演奏会プログラム等にご芳名を記載させていただきます。

N響主催公演のご鑑賞や会場リハーサル見学の機会を設けます。

### 遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL：03-5793-8120

# NHK交響楽団

首席指揮者：ファビオ・ルイーヂ

名誉音楽監督：シャルル・デュトワ

桂冠名誉指揮者：ヘルベルト・ブロムシュテット

桂冠指揮者：ウラディーミル・アシュケナージ

名誉指揮者：パーヴォ・ヤルヴィ

正指揮者：尾高忠明、下野竜也

特別コンサートマスター：篠崎史紀

コンサートマスター：伊藤亮太郎

ゲスト・コンサートマスター：郷古 廉

## 第1ヴァイオリン

- 青木 調  
宇根京子  
大鹿由希  
○倉富亮太  
後藤 康  
小林玉紀  
高井敏弘  
猶井悠樹  
中村弓子  
降旗貴雄  
○松田拓之  
宮川奈々  
村尾隆人  
○山岸 努  
○横島礼理  
○横溝耕一

## 第2ヴァイオリン

- ◎大宮臨太郎  
◎森田昌弘  
木全利行  
齋藤麻衣子  
○嶋田慶子  
○白井 篤  
○田中晶子  
坪井きらら  
丹羽洋輔  
平野一彦  
船木陽子  
俣野賢仁  
○三又治彦  
矢津将也

山田慶一  
横山俊朗  
米田有花  
  
飯塚歩夢  
東條太河

## ヴィオラ

- ◎佐々木 亮  
◎村上淳一郎  
☆中村翔太郎  
小野 聡  
小島茂隆  
□坂口弦太郎  
谷口真弓  
飛澤浩人  
○中村洋乃理  
松井直之  
三国レイチェル由依  
# 御法川雄矢  
○村松 龍  
山田雄司

## チェロ

- ◎辻本 玲  
◎藤森亮一  
市 寛也  
小島幸法  
○中 実穂  
○西山健一  
藤村俊介  
藤森洗一  
宮坂拓志

村井 将  
矢部優典  
○山内俊輔  
渡邊方子

## コントラバス

- ◎吉田 秀  
○市川雅典  
稻川永示  
○岡本 潤  
今野 京  
○西山真二  
本間達朗  
矢内陽子

## フルート

- ◎甲斐雅之  
◎神田寛明  
梶川真步  
中村淳二

## オーボエ

- ◎吉村結実  
池田昭子  
坪池泉美  
和久井 仁

## クラリネット

- ◎伊藤 圭  
◎松本健司  
# 山根孝司

## ファゴット

- ◎宇賀神広宣  
◎水谷上総  
佐藤由起  
菅原恵子  
森田 格

## ホルン

- ◎今井仁志  
石山直城  
勝保 泰  
木川博史  
庄司雄大  
野見山和子

## トランペット

- ◎菊本和昭  
◎長谷川智之  
安藤友樹  
山本英司

## トロンボーン

- ◎古賀 光  
◎新田幹男  
池上 亘  
黒金寛行  
吉川武典

## テューバ

- 池田幸広

## ティンパニ

- ◎植松 透  
◎久保昌一

## 打楽器

石川達也  
黒田英実  
竹島悟史

## ハーブ

早川りさこ

## ステージ・マネージャー

徳永匡哉  
黒川大亮

## ライブラリアン

沖 あかね  
木村英代

(五十音順、◎首席、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター)

## 曲目解説執筆者・歌詞対訳者

---

### 亀山郁夫(かめやま いくお)

ロシア文学者、名古屋外国語大学学長、世田谷文学館館長、東京外国語大学名誉教授。おもな著書に『磔のロシア』(大佛次郎賞)、『謎とき「悪霊」』(読売文学賞)、『ドストエフスキー 父殺しの文学』『新カラマーゾフの兄弟』『『カラマーゾフの兄弟』続編を空想する』などが、おもな訳書にドストエフスキー『カラマーゾフの兄弟』(毎日出版文化賞)などがある。

---

### 小宮正安(こみや まさやす)

横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院・都市科学部教授。専門はヨーロッパ文化史、ドイツ文学。著書に『リヒャルト・シュトラウス《ばらの騎士》』(もったきわめる! 1曲1冊シリーズ)、『エリザベートと黄昏のハプスブルク帝国』『コンスタンツェ・モーツァルト』『ヨハン・シュトラウス』、訳書に『ウィーン・フィル コンサートマスターの楽屋から』『チャールズ・バーニー音楽見聞録(ドイツ篇)』など。

---

### 小室敬幸(こむろ たかゆき)

音楽ライター。東京音楽大学付属高等学校および同大学で作曲を、同大学院で音楽学を専攻。クラシックやジャズ、映画音楽を中心に楽曲解説の寄稿やインタビュー取材、ラジオ出演など幅広く活動。共著書に『聴かずらいのための吹奏楽入門』『コモンズ:スコラ vol. 18 ピアノへの旅』など。

---

### 千葉潤(ちば じゅん)

札幌大谷大学学長。2003年、モスクワ音楽院大学院から芸術学カンディダート(Ph. D)を授与される。専門はロシア音楽。著書に『ショスタコーヴィチ』(作曲家・人と作品シリーズ)、『アリフレド・シュニツケの交響的創作』、共編著書に『ロシア音楽事典』、おもな論文に『エディソン・デニーソフ《死は永き眠り》における変奏技法の諸特徴』など。

---

### 濱田吾愛(はまだ わかな)

東京藝術大学非常勤講師、日本サルスエラ協会理事。立教大学英米文学科卒業後、音楽出版社勤務を経てフリーランスのライターとなり、月刊『ショパン』、月刊『パセオフラメンコ』などに寄稿。1993年よりエンリケ坂井にカンテ・フラメンコを師事し、各地でライブ活動を行うほか、スペインでシンポジウムや公演に参加。おもな著書に『物語で読むフラメンコ入門』など。

(五十音順、敬称略)



# みなさまの声をお聞かせください！

## インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。  
ご協力をお願いいたします。

### アクセス方法

STEP

1



スマートフォンで右の  
QRを読み取る。  
またはURLを入力  
[https://www.nhkso.or.jp/  
enquete.html](https://www.nhkso.or.jp/enquete.html)



STEP

2



開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP

3



アンケートに答えて(約5分)、  
「送信」を押して完了！

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。

定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

|      |  |     |   |
|------|--|-----|---|
| ふりがな |  | 年齢  | 歳 |
| お名前  |  | TEL |   |

### 個人情報の取り扱いについて

ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。

# NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Fabio Luisi

Music Director Emeritus: Charles Dutoit

Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt

Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy

Honorary Conductor: Paavo Järvi

Permanent Conductors: Tadaaki Otaka, Tatsuya Shimono

Specially Appointed Concertmaster: Fuminori Maro Shinozaki

Concertmaster: Ryotaro Ito

Guest Concertmaster: Sunao Goko

## 1st Violins

- Shirabe Aoki
- Kyoko Une
- Yuki Oshika
- Ryota Kuratomi
- Ko Goto
- Tamaki Kobayashi
- Toshihiro Takai
- Yuki Naoi
- Yumiko Nakamura
- Takao Furihata
- Hiroyuki Matsuda
- Nana Miyagawa
- Ryuto Murao
- Tsutomu Yamagishi
- Masamichi Yokoshima
- Koichi Yokomizo

## 2nd Violins

- Rintaro Omiya
- Masahiro Morita
- Toshiyuki Kimata
- Maiko Saito
- Keiko Shimada
- Atsushi Shirai
- Akiko Tanaka
- Kirara Tsuboi
- Yosuke Niwa
- Kazuhiko Hirano
- Yoko Funaki
- Kenji Matano
- Haruhiko Mimata
- Masaya Yazu
- Yoshikazu Yamada
- Toshiro Yokoyama
- Yuka Yoneda
  
- Ayumu Iizuka
- Taiga Tojo

## Violas

- Ryo Sasaki
- Junichiro Murakami
- ☆ Shotaro Nakamura
- Satoshi Ono
- Shigetaka Obata
- Gentaro Sakaguchi
- Mayumi Taniguchi
- Hiroto Tobisawa
- Hironori Nakamura
- Naoyuki Matsui
- Rachel Yui Mikuni
- # Yuya Minorikawa
- Ryo Muramatsu
- Yuji Yamada

## Cellos

- Rei Tsujimoto
- Ryoichi Fujimori
- Hiroya Ichi
- Yukinori Kobatake
- Miho Naka
- Ken'ichi Nishiyama
- Shunsuke Fujimura
- Koichi Fujimori
- Hiroshi Miyasaka
- Yuki Murai
- Yusuke Yabe
- Shunsuke Yamanouchi
- Masako Watanabe

## Contrabasses

- Shu Yoshida
- Masanori Ichikawa
- Eiji Inagawa
- Jun Okamoto
- Takashi Konno
- Shinji Nishiyama
- Tatsuro Honma
- Yoko Yanai

## Flutes

- Masayuki Kai
- Hiroaki Kanda
- Maho Kajikawa
- Junji Nakamura

## Oboes

- Yumi Yoshimura
- Shoko Ikeda
- Izumi Tsuboike
- Hitoshi Wakui

## Clarinets

- Kei Ito
- Kenji Matsumoto
- # Takashi Yamane

## Bassoons

- Hironori Ugajin
- Kazusa Mizutani
- Yuki Sato
- Keiko Sugawara
- Itaru Morita

## Horns

- Hitoshi Imai
- Naoki Ishiyama
- Yasushi Katsumata
- Hiroshi Kigawa
- Yudai Shoji
- Kazuko Nomiyama

## Trumpets

- Kazuaki Kikumoto
- Tomoyuki Hasegawa
- Tomoki Ando
- Eiji Yamamoto

## Trombones

- Hikaru Koga
- Mikio Nitta
- Ko Ikegami
- Hiroyuki Kurogane
- Takenori Yoshikawa

## Tuba

- Yukihiro Ikeda

## Timpani

- Toru Uematsu
- Shoichi Kubo

## Percussion

- Tatsuya Ishikawa
- Hidemi Kuroda
- Satoshi Takeshima

## Harp

- Risako Hayakawa

## Stage Manager

- Masaya Tokunaga
- Daisuke Kurokawa

## Librarian

- Akane Okii
- Hideyo Kimura

(○) Principal, (☆) Acting Principal, (○) Vice Principal, (□) Acting Vice Principal, (#) Inspector

## PROGRAM

A

Concert No.2004

NHK Hall

February

3 (Sat) 6:00pm

4 (Sun) 2:00pm

conductor

Michiyoshi Inoue

bass

Alexey Tikhomirov\*<sup>○</sup>

male chorus

Orphei Drängar (Cecilia Rydinger, chorus master)\*

concertmaster

Sunao Goko

○Changed from initially scheduled.

**Johann Strauss II**  
*Im Krapfenwald'l*, polka française  
 Op. 336 (*In Krapfen's Woods*) [5']

**Dmitry Shostakovich**  
**Suite for Variety Orchestra No. 1**  
 —*March, Lyrical Waltz,*  
*Little Polka, Waltz II* [13']

— intermission (20 minutes) —

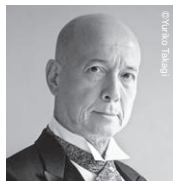
**Dmitry Shostakovich**  
**Symphony No. 13 B-flat Minor**  
 Op. 113, *Babi Yar*\* [59']

- I Babi Yar
- II Humor
- III In the Store
- IV Fears
- V A Career

- All performance durations are approximate.

## Artist Profiles

## Michiyoshi Inoue, conductor



Michiyoshi Inoue, a renowned conductor born in 1946, announced his coming retirement at the end of 2024. What he chose when he was invited to the NHK Symphony Orchestra's subscription concerts in November 2016, after an interval of 38 years, was an all-Shostakovich program. And it was in October 2019 when he caused a sensation performing a program of Philip Glass and Shostakovich. In December 2020 under the pandemic, he conducted Shostakovich Symphony No.1, followed by his successful appearance with the composer's Symphony No.10 in the November 2022 subscription concerts. And on this occasion, in the February 2024 subscription concerts, he goes on with Suite for Variety Orchestra No. 1 and Symphony No. 13 *Babi Yar*.

Michiyoshi Inoue was born and raised after the Second World War, when the world was

dominated by the Cold War between East and West, and has roots in both Japan and the United States. He overlaps himself with Shostakovich, an artist who struggled but managed to survive the socialist system of the former Soviet Union. Therefore his unabashed devotion to the composer which is expressed in his openly declared words of “Shostakovich is myself” has permeated each and every member of the NHK Symphony Orchestra, achieving performances with an extremely high level of empathy.

*Im Krapfenwald'l*, polka française (*In Krapfen's Woods*) by the waltz king Johann Strauss II, which is placed at the beginning of today's program, stands out. I assume Inoue has selected this work as it was written during the composer's stay in Pavlovsk at the invitation of the Russian Empire, and it was originally titled *Im Pawlowsk Walde* (*In the Pavlovsk Woods*). But it may also be related to the fact that the 3rd piece of Shostakovich's Suite for Variety Orchestra No. 1 to be performed on this occasion is *Little Polka*. Inoue's brilliant conducting style, which suggests that he aspired to be a dancer in his youth, is also something to pay attention to.

A

3 & 4, FEB. 2024

---

## Alexey Tikhomirov, bass



Bass singer Alexei Tikhomirov, a native of Kazan, the capital of the Russian Republic of Tatarstan, became a soloist with Moscow's Helikon Opera in 2005, and has since continuously appeared at major European opera houses such as the Bolshoi Theatre, the Staatsoper Berlin, and the Staatsoper Hamburg. He has a wide-ranging repertoire, not to mention that of Russian operas, including the title role of *Boris Godunov* and Boris in *Lady Macbeth of Mtsensk*, but also Fasolt in *Das Rheingold* and Basilio in *The Barber of Seville*. He first appeared in Japan in October 2019 singing the role of Duke Gremin in *Eugene Onegin* at the New National Theatre, and showed a great presence with his deep and soft singing voice.

He has sung in Shostakovich's Symphony No. 13 *Babi Yar* with the Chicago Symphony Orchestra under Muti in September 2018, and then in September 2023, with the musicAeterna and the SWR Symphonieorchester under the baton of Teodor Currentzis and has won artistic acclaim. So our expectations are certainly high to imagine what sort of world he will portray with the NHK Symphony Orchestra, in his first appearance.

---

## Orphei Drängar, male chorus



The Orphei Drängar Male Choir, known as the servants of Orpheus, was founded in 1853 in Uppsala, 70 kilometers north of the Swedish capital Stockholm. It is believed to have started when students of Uppsala University, the oldest university in Northern Europe, sang choir works to cheer up the town of Uppsala, which had become isolated due to an epidemic.

The choir worked under the guidance of Alfvén, Sweden's leading composer, and Eric Ericson, praised as the “King of Chorus,” who served as conductors, and especially the relationship with Ericson continued for forty years from 1951 through to 1991, during which time,

the choir's ability has improved dramatically to the point where it is said to be the world's best a cappella choir. From 2008, Cecilia Rydinger has been the conductor. The finely honed harmonies of about 90 male voices overwhelmingly move the hearts of those who listen to the music. Because they have a wide repertoire ranging from Renaissance polyphony to contemporary music, the work by Shostakovich they will sing on this occasion will surely display the underlying strength of such choruses.

[Michiyoshi Inoue by Takuo Ikeda, music journalist, Alexey Tikhomirov and Orphei Drängar by Naoko Murota, music critic]

---

## Program Notes | Kumiko Nishi

---

**Johann Strauss II (1825–1899)**

### ***Im Krapfenwald'l*, polka française Op. 336 (*In Krapfen's Woods*)**

Along with his father (1804–1849) of the same name, Johann Strauss II represents the famous Austrian musical family which founded the basis of the Viennese waltz and led it to its heyday. Known today as “The Waltz King,” Strauss II went into music despite his father’s opposition to be a successful composer, conductor and violinist. The Younger wrote around 170 waltzes of great refinement including *An der schönen blauen Donau* (*The Blue Danube*) (1867) besides over fifteen operettas of which the best known is *Die Fledermaus* (*The Flittermouse*) (1874).

Strauss II left us approximately 120 polkas, too. This duple-meter dance of Bohemian origin was introduced to Vienna in the late 1830s before becoming a popular ballroom dance around Europe. Op. 336 performed today is a fine example of a “polka française” (French polka) which is elegant in character and slower in tempo in contrast to “polka schnell” (quick polka). Op. 336 is pleasantly naturalistic with whistles evocating the twitter of cuckoos and other birds.

The fact that Op. 336 was first performed in 1869 in Russia as *Im Pawlowsk Walde* (*In the Pawlowsk Woods*) is not irrelevant to the rest of today’s program. Nearly every year from 1856 to 1869, Strauss II was invited by a Russian railway company to stay in the summer retreat Pavlovsk (near St. Petersburg) to conduct the summer concert season. For the audience of his birthplace, the composer later renamed it *In Krapfen's Woods* after an area of the Vienna Woods.

**Dmitry Shostakovich (1906–1975)**

### **Suite for Variety Orchestra No. 1 —*March, Lyrical Waltz, Little Polka, Waltz II***

The St. Petersburg-born composer Shostakovich is deemed to be a preeminent symphonist with his fifteen tours de force, not forgetting being an important contributor to chamber music. Theatrical music (operas, ballets, film scores and incidental music works), however, occupies quite a wide space in his oeuvre. Having lost his father, the teenage composer started to gain his bread as a silent-movie pianist in 1924. Even after the well-received premieres in 1926–1927 of his

first two symphonies, he, still in need, penned a number of theatrical works. This continued over his entire life to bring about, for instance, as many as thirty-five film scores total.

The Suite for Variety Orchestra No. 1 consists of eight delectable gems picked from Shostakovich's film and stage scores. Assembled by an anonymous person (or possibly by Shostakovich himself) around the mid-1950s, this set had been erroneously identified with the Jazz Suite No. 2 until recent years. As the correct title hints, the orchestral formation including a guitar, an accordion and saxophones sticks out of the classical frame. After jaunty *March* from the 1941 Soviet movie *The Adventures of Korzinkina*, *Lyrical Waltz* gives an impressive accordion solo in the central section. Probably the composer's most popular piece today, *Waltz II* is heard in the Soviet movie *The First Echelon* (1956) and Stanley Kubrick's last film *Eyes Wide Shut* (1999): the haunting melody first-sung by a saxophone will be roared by a trombone towards the end to bolster the melancholic feeling up.

## Dmitry Shostakovich

### Symphony No. 13 B-flat Minor Op. 113, *Babi Yar*

All the fifteen symphonies Shostakovich left us were more or less at the mercy of the time. Interestingly enough, No. 8 (1943) and No. 9 (1945) which incurred the Soviet authorities' wrath the most among all his symphonies are purely instrumental. Even No. 5 (1937), No. 11 *The Year 1905* (1957) and No. 12 *The Year 1917* (1961) understood by the government to "rehabilitate" the composer, do not have any sung-words.

No. 13 (1962) is Shostakovich's first vocal symphony since propagandistic No. 2 (1927) and No. 3 (1929) both requiring a chorus at the close. Moreover, No. 13, a choral symphony for an exceptional formation (bass soloist, bass chorus and orchestra), is virtually sung throughout like Mahler's No. 8.

Although a product of the post-Stalin era, namely from the Thaw period, No. 13 was nevertheless a highly risky work because of the politically provocative texts by the young Soviet poet Yevgeny Yevtushenko (1933–2017). The poem *Babi Yar* used for the first movement, above all, denounces the anti-Semitism still found everywhere, a taboo subject for the USSR. (*Babi Yar* is a ravine located on the outskirts of Kyiv, Ukraine where the Nazis massacred Jews in 1941.) The symphony vexed Nikita Khrushchev and his henchmen who attempted to sabotage the 1962 premiere in Moscow.

The tense first movement is haunted by ill-omened bell tolls. The chorus enters singing "There is no monument over Babi Yar. / The steep ravine is like a coarse tombstone." The second movement *Humor* is a polka-style scherzo mocking at "Czars, kings, emperors, / potentates of the whole earth" as they "were unable to command humor." The following three movements are performed seamlessly: *In the Store* describes Soviet women patiently standing in a queue in the severe cold, while *Fears*, opened by a tam-tam (gong) clanging, decries "new fears" replacing fears of bygone (Stalinist) days. Waltz-style *A Career* praises Galileo Galilei for having been brave enough to turn his back to the earthly success in life, before whispering the symphony's conclusion with a bell tolling.

## Kumiko Nishi

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).

PROGRAM

B

Concert No.2006

Suntory Hall

February

14 (Wed) 7:00pm

15 (Thu) 7:00pm

conductor Pablo Heras-Casado

violin Augustin Hadelich

soprano Tamayo Yoshida\*

concertmaster Sunao Goko

**Maurice Ravel**

***Rapsodie espagnole***

(*Spanish Rhapsody*) [15']

- I Prélude à la nuit
- II Malagueña
- III Habanera
- IV Feria

**Sergei Prokofiev**

**Violin Concerto No. 2 G Minor**

**Op. 63** [26']

- I Allegro moderato
- II Andante assai
- III Allegro, ben marcato

— intermission (20 minutes) —

**Manuel de Falla**

***El sombrero de tres picos*, ballet  
(complete) (*The Three-Cornered Hat*)\***

[38']

Introduction

[Part I]

- I La tarde (Afternoon)
- II Danza de la molinera (Fandango) (Dance of Miller's Wife)
- III Las uvas (The Grapes)

[Part II]

- I Danza de los vecinos (Seguidillas) (The Neighbour's Dance)
- II Danza del molinero (Farruca) (The Miller's Dance)
- III Danza del corregidor (The Corregidor's Dance)
- IV Danzafinal (Jota) (Final Dance)

- All performance durations are approximate.

## Pablo Heras-Casado, conductor



Pablo Heras-Casado was born in Spain in 1977. He visited Japan in 2009 as one of the conductors of Stuckhausen's *Gruppen* for three orchestras at Suntory Summer Festival, which was his first collaboration with the NHK Symphony Orchestra, and in 2011, he gave the world premiere performance to Toshio Hosokawa's opera *Matsukaze* at the Théâtre de la Monnaie. In that sense, he was initially received in Japan as a conductor

specialized in contemporary works, however he has continued to develop an extensive repertoire ranging from works of the Romantic period to large orchestral works and operas. He has guest-conducted the world's leading orchestras such as the Berliner Philharmoniker and the Wiener Philharmoniker, while often working with early music ensembles such as the Freiburger Barockorchester, and has a deep knowledge of this genre. He frequently appears with prestigious opera houses including Teatro Real, Madrid, where he is Principal Guest Conductor, La Scala, Milan, and the Wiener Staatsoper, and in the summer of 2023, he made his debut at the Bayreuther Festspiele conducting *Parsifal*. Thus he is showing an outstanding presence in the classical music scene.

He pays careful attention to details to create precise sounds, and at the same time, he produces lively music which resonates well, drawing clear and fresh sounds from orchestras. In recent years, the opportunities to work with the NHK Symphony Orchestra have become more frequent, and he has exhibited his wide range of knowledge and interpretations through a varied selection of repertoire. On this visit, he has selected a grand work by Falla, a composer of his native country, as the main work, combined with works such as Ravel's *Spanish Rhapsody*, a program which can show his true potential.

## Augustin Hadelich, violin



Augustin Hadelich was born in 1984 to German parents in Italy, and studied at Mascagni Academy and Juilliard School. Despite an unfortunate incident that left him with severe burns affecting 60% of his body in 1999, he overcame more than twenty surgeries and rehabilitation, with his unyielding mentality. In 2006, he won the International Violin Competition of Indianapolis, and furthermore, he was highly praised for

his debut performance at Carnegie Hall in 2008. Since then, he has worked with such renowned conductors as Andris Nelsons, Herbert Blomstedt and Neville Marriner, and with the world's leading orchestras such as the Royal Concertgebouw Orchestra, the Symphonieorchester des Bayerischen Rundfunks, the Münchner Philharmoniker, the Boston Symphony Orchestra, the Cleveland Orchestra and the Chicago Symphony Orchestra as well as in many music festivals including the BBC Proms. He has a huge discography, and won Grammy Award for Best Classical Instrumental Solo in 2016. This is his first appearance in the NHK Symphony Orchestra subscription concert. He will perform Prokofiev's Violin Concerto No. 2, the work he recorded in 2021 in a delicate and brilliant way, so our expectations are naturally very high.



---

## Tamayo Yoshida, soprano



Tamayo Yoshida graduated from Aichi University of the Arts, its post-graduate course, and completed the New National Theatre's Opera Studio. She went to Bologna, Italy in 2006 to study on scholarship by the Japan's Agency for Cultural Affairs and also studied in Munich and Vienna from 2008 to 2010 by receiving a special grant from the Rohm Music Foundation. In 2010, she made her European debut by singing the role

of Donna Anna in *Don Giovanni* at the Musikfestival Steyr and in 2012, she sang the title role of *Madama Butterfly* on a short notice at the Seiji Ozawa Music Academy and won critical acclaim. Since then, she has worked with the world's renowned conductors, including Zubin Mehta in 2016, singing in Beethoven 9th Symphony to mark the Suntory Hall's 30th anniversary with the Wiener Philharmoniker. She was a soloist for Beethoven's 9th Symphony staged at the Vienna Musikverein in 2017 while has appeared on many stages, including Seiji Ozawa Matsumoto Festival as well as at the New National Theatre, Nissay Theatre and PMF Sapporo. She received the highest prize at the 6th Mt. Fuji International Opera Competition of Shizuoka, the Tamaki Miura Award, and the 12th Hiroyuki Iwaki Music Award. She is a member of Nikikai.

Her singing voice with her deep tone and rich musicality has been highly evaluated across the world, therefore her flamenco-style singing in *The Three-cornered Hat* in her first collaboration with the NHK Symphony Orchestra will be highly focused on.

[Pablo Heras-Casado by Mitsunori Eto, music critic, Augustin Hadelich and Tamayo Yoshida by Katsuhiko Shibata, music critic]

---

### Program Notes | Kumiko Nishi

---

#### Maurice Ravel (1875–1937)

### *Rapsodie espagnole* (*Spanish Rhapsody*)

Spain fascinated French composers of the 19th and 20th centuries, whether they had visited there – like Saint-Saëns (*Andalusian Caprice*, 1904) and Chabrier (*Spain*, 1883) – or they used their imagination – like Bizet (*Carmen*, 1875) and Debussy (*Evening in Granada* from *Estampes*, 1903 and *Iberia* from *Images for Orchestra*, 1908) –. An exceptional case is Ravel, as he, born in a French Basque town close to the Spanish border, grew up listening to Spanish folk songs crooned by his Basque mother. Having once lived in Madrid, she was reportedly a fluent Spanish speaker. Proud of this cultural heritage, Ravel wrote some Spain-inspired masterworks including *L'heure espagnole* (*Spanish Time*) (1907) and *Boléro* (1928).

*Spanish Rhapsody* is Ravel's very first orchestral piece put into print. The origin of this four-movement music was *Habanera* which was initially penned for two pianos in 1895. The French composer then wrote three more for the same formation in the early 1900s before orchestrating all four. *Spanish Rhapsody* was thus revealed in 1908 in Paris and made his polished scoring abilities widely known.

Because of the above-mentioned genesis, III *Habanera* is the only movement which doesn't share the descending theme (F/E/D)/C-sharp). This "cyclic" theme is constantly repeated

during I *Prélude à la nuit* (*Prelude to the Night*) and ends II *Malagueña* in an impressive manner (malagueña is a flamenco dance from Málaga in Andalusia). The four-note melody reappears in IV *Feria* (*Festival*), a colorful and high-spirited music landscape.

**Sergei Prokofiev (1891–1953)**

## Violin Concerto No. 2 G Minor Op. 63

Prokofiev left us two violin concertos contrasting in style. No. 2 was first performed in Madrid by the French violinist Robert Soetens and the Spanish conductor Enrique Fernández Arbós leading the Madrid Symphony Orchestra in December 1935. Those who are familiar with Prokofiev's radical modernism from his early years could be tricked by the work's comparatively conservative writing and classical construction with three rapid-slow-rapid movements. The historical background explains this, as it was penned around the time Prokofiev settled for good in his homeland – then the USSR – following an eighteen-year stint overseas. No. 2, along with the ballet *Romeo and Juliet*, is from Prokofiev's transition to a more lyrical, melodious and conventionally tonal style of his Soviet era.

The concerto was a commission from fans of Soetens with whom Prokofiev as pianist was just touring in Europe. The first sonata movement in G minor begins with the violin's monologue giving the Russian-folky five-beat theme against the background of 4/4 time. The slow middle movement in E-flat major gives also a metrical twist with the mellifluous principal theme alternating 12/8 and 4/4 time introduced by the violin solo at the outset. The lively finale in free rondo-like form (A–B–A–C–A–B–A–coda) in B-flat major / G major sounds Hispanic at times as if to regale the first audience in Spain with a local hue: the section A returns three times accompanied by castanets clacking.

**Manuel de Falla (1876–1946)**

## *El sombrero de tres picos*, ballet (complete) (*The Three-Cornered Hat*)

Isaac Albéniz (1860–1909), Enrique Granados (1867–1916) and Falla – the three Spaniards who lived a page of their life in France are eloquent testimony to the intimate relations between the French and Spanish music worlds at the turn of the century. Born in Cádiz, Falla was trained in Madrid by the Catalan composer Felipe Pedrell (1841–1922) known as the father of the Spanish national school of music. From 1907 to 1914, Falla stayed in Paris where he met Ravel, Debussy, Stravinsky and the Russian impresario Sergei Diaghilev. The outbreak of World War made Falla return home to continue to compose in Madrid.

*El sombrero de tres picos* (*The Three-Cornered Hat*) is from the second Madrilenian period of the now-well-traveled Falla. Based on an Andalusian folk tale, it was originally a pantomime entitled *El Corregidor y La Molinera* (*The Magistrate and the Miller's Wife*) (1917) with music by Falla. He, encouraged by Diaghilev, made from it the fully-fledged ballet score: *El sombrero de tres picos* was first staged in London in 1919 by Léonide Massine and Ballets Russes, Diaghilev's dance company, with the set and costume by Pablo Picasso.

The introduction opens with shouts of “Ole!”, castanets clacking and the singer warning “Young bride, lock your door securely!” Set in an Andalusian town, the two-act ballet features

B

14 & 15, FEB. 2024

the Magistrate wearing a “three-cornered hat”, the symbol of power, the Miller and his beautiful Wife. A highlight of the first act is a seductive fandango, a Spanish folk dance. The Miller’s Wife dances it to make fun of the Magistrate who visits the mill to court her. She and her husband succeed in sending the womanizer away. The second act starts with neighbors dancing a seguidilla followed by the Miller dancing a farruca, both are Spanish folk dances. The festiveness is interrupted by the sudden arrest of the Miller – the dramatic opening of Beethoven’s Fifth Symphony is heard – which is plotted by the Magistrate who attempts to sleep with the Miller’s Wife. The trouble comes to a boisterous happy ending for the Miller couple dancing with their neighbors a jota, a rhythmical dance originally from Aragon, Spain.

B

14 & 15, FEB. 2024

### Kumiko Nishi

---

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 63

## PROGRAM

C

Concert No.2005

NHK Hall

February

9 (Fri) 7:30pm

10 (Sat) 2:00pm

conductor

Eiji Oue

concertmaster

Sunao Goko

## [Pre-concert Chamber Music – Exclusive to Program C]

Friday 9th from 6:45pm / Saturday 10th from 1:15pm

Ryota Kuratomi(vn.), Nana Miyagawa(vn.), Hiroto Tobisawa(vla.), Yukinori Kobatake(vc.), Yoko Yanai(cb.)

Dvořák / Strings Quintet No. 2 G major Op. 77—1st Movement

\* You may enter and leave as you please during the performance.

\* Enjoy chamber music from your own seat.

Richard Wagner  
*Siegfried Idyll* [18']Richard Strauss  
*Ein Heldenleben,*  
symphonic poem Op. 40  
(*A Hero's Life*) [45']

- I Der Held (The Hero)
- II Des Helden Widersacher  
(The Hero's Adversaries)
- III Des Helden Gefährtin (The Hero's Companion)
- IV Des Helden Walstatt (The Hero at Battle)

- V Des Helden Friedenswerke  
(The Hero's Works of Peace)
- VI Des Helden Weltflucht und Vollendung  
(The Hero's Retreat from the World and Completion)

- This concert will be performed with no intermission.
- All performance durations are approximate.

C

9 &amp; 10 FEB. 2024

## Artist Profile

## Eiji Oue, conductor



Eiji Oue, born in Hiroshima Prefecture, studied under Hideo Saito at Toho Gakuen School of Music, and by the invitation of Seiji Ozawa, went to the U.S. in 1978, and studied with Larry Livingston at the New England Conservatory in Boston. He also participated in the Tanglewood Music Festival and met Leonard Bernstein who became his mentor. In 1985, together with Bernstein, he took part in the Hiroshima Peace

Concert to conduct *Hiroshima Requiem for strings* by Tomiko Kojiba. He has held positions with North American orchestras, including Associate Conductor of the Buffalo Philharmonic Orchestra from 1986, Music Director of the Erie Philharmonic since 1991, and ninth Music Director of the Minnesota Orchestra in 1995. In 1998, he became Chief Conductor of the NDR Radiophilharmonie Hannover, and was awarded the title of Honorary Conductor in 2009.

In Japan, he assumed the post of Music Director of the Osaka Philharmonic Orchestra to succeed Takashi Asahina in 2003, while also contributing to promotion of classical music by producing events such as Hoshizora Concert (concert under the star-studded sky) at Osaka Castle Nishi no Maru Garden and the Osaka Classic held at retail showrooms around Midosuji and Nakanoshima in Osaka City. He is now the orchestra's Conductor Laureate. In the summer of 2005, he conducted *Tristan und Isolde* at the Bayreuter Festspiele as the first Japanese conductor, and served as Music Director of the Barcelona Symphony Orchestra from 2006 to 2010.

He conducted the NHK Symphony Orchestra for the first time in 1999, and although he returned to the orchestra in 2021 in its special concert after long years of absence, his appearance in the orchestra's subscription concert on this occasion is after an interval of 25 years.

[Eiji Oue by Takuya Katagiri, music critic]

---

## Program Notes | Kumiko Nishi

---

### Richard Wagner (1813–1883)

---

## Siegfried Idyll

Among Wagner's operas, the most heroic character is likely Siegfried (appearing in *Siegfried* and *Götterdämmerung* [Twilight of the Gods] from *Der Ring des Nibelungen* [the Ring of the Nibelung]), the mortal grandson of the ruler of the gods. Wagner named his son after the fearless hero – future conductor and composer Siegfried Wagner – whose mother Cosima is Franz Liszt's daughter.

Wagner's *Siegfried Idyll* for a chamber orchestra is an exceptionally small piece compared to his other sizable operatic works. He composed it as a birthday and Christmas present for his wife Cosima to thank her for giving birth to their now-eighteen-month-old Siegfried. It was premiered in private: on Christmas morning in 1870, it was performed by fifteen musicians on the staircase of Wagner's villa on the shore of Lake Lucerne to awake Cosima as a great surprise. He later touched it up and published it in 1878.

*Siegfried Idyll* has several motifs/themes common to Wagner's then-ongoing project, the *Ring* cycle (premiered in 1876), especially its third part *Siegfried*. The most symbolic is the main melody given by the first violins at the beginning of *Idyll*: the same melody is sung by Brünnhilde, just awakened by Siegfried, during their extended love duet in Act 3 of *Siegfried*. The long blithe solo by the horn – Siegfried's attribute – in the midst of *Idyll* is also heard toward the end of the same love duet of the opera with Siegfried singing “Laughing, you wake in gladness to me!”

## ***Ein Heldenleben*, symphonic poem Op. 40 (A Hero's Life)**

The composer whose music is tied to the notion of the hero most tightly is surely Beethoven. He even named his third symphony (1804) *eroica* (*heroic*) reusing a theme from his *Die Geschöpfe des Prometheus* (*The Creatures of Prometheus*) a ballet about the heroic Greek god. Beethoven himself embodies the hero as well for he fought against deafness – a vital blow to a musician – to create revolutionary and philanthropic works.

In the Romantic period, R. Strauss who was already a big name both as a composer and conductor followed Beethoven's footsteps: the Bavarian composer created what crowned his achievements in the genre of symphonic poem choosing the same subject (hero), home key (E-flat major) and central instrument (horns) as Beethoven's *eroica*. After this mighty work entitled *Ein Heldenleben* (*A Hero's Life*) (1898), Strauss would never compose a symphonic poem to forge a new path as an opera composer (according to him, *Symphonia Domestica* [1903] and *Eine Alpensinfonie* [*An Alpine Symphony*] [1915] are, though programmatic, not categorized as symphonic poems).

Strauss equivocated on the identification of “a hero.” However, it is generally believed that *Ein Heldenleben* is autobiographical, except that it was too early for the then-thirty-four-year composer to “look back” at his latter life as he would live to eighty-five. The work consists of six sections (performed seamlessly) with titles, although Strauss didn't allow them to be printed on the published scores. I *Der Held* (*The Hero*) begins with horns and low strings announcing the theme of the hero. II *Des Helden Widersacher* (*The Hero's Adversaries*) ridicules critics who lashed out against the hero, then III *Des Helden Gefährtin* (*The Hero's Companion*) lets the violin solo depict Pauline, Strauss' variable but lovable wife. A trumpet fanfare opens IV *Des Helden Walstatt* (*The Hero at Battle*) followed by V *Des Helden Friedenswerke* (*The Hero's Works of Peace*) where Strauss “auto-quotes” about ten of his previous pieces including the symphonic poems *Don Juan* and *Thus Spoke Zarathustra*. VI *Des Helden Weltflucht und Vollendung* (*The Hero's Retreat from the World and Completion*) comes to a calm climax with the horn solo and the violin solo melodies staying together, prior to the closing triumphant brass fanfare.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 63



# The Subscription Concerts Program 2023–24

|            |   |   |  |  |
|------------|---|---|--|--|
| 2024<br>04 | A | Concert No. <b>2007</b>                     | <b>Schubert</b> Symphony No. 4 C Minor D. 417, <i>Tragische (Tragic)</i><br><b>Brahms</b> Symphony No. 1 C Minor Op. 68  | Ordinary Youth<br>S 9,100 S 4,000<br>A 7,600 A 3,500<br>B 5,900 B 2,800<br>C 4,800 C 2,100<br>D 3,800 D 1,500<br>E 2,000 E 1,000 |
|            |   | April<br>13 (Sat) 6:00pm<br>14 (Sun) 2:00pm | Marek Janowski, conductor  |  |
|            |   | NHK Hall                                    |  |  |
| 2024<br>04 | B | Concert No. <b>2009</b>                     | <b>Schumann</b> <i>Genoveva</i> , opera Op. 81—Overture<br><b>Schumann</b> Cello Concerto A Minor Op. 129<br><b>Schumann</b> Symphony No. 2 C Major Op. 61   | Ordinary Youth<br>S 9,800 S 4,500<br>A 8,400 A 4,000<br>B 6,700 B 3,300<br>C 5,400 C 2,500<br>D 4,400 D 1,800                    |
|            |   | April<br>24 (Wed) 7:00pm<br>25 (Thu) 7:00pm | Christoph Eschenbach, conductor<br>Kian Soltani, cello   |  |
|            |   | Suntory Hall                                |  |  |
| 2024<br>04 | C | Concert No. <b>2008</b>                     | <b>The 200th Anniversary of Anton Brückner's Birth</b><br><b>Bruckner</b> Symphony No. 7 E Major   | Ordinary Youth<br>S 7,600 S 3,500<br>A 6,700 A 3,000<br>B 5,300 B 2,400<br>C 4,300 C 1,900<br>D 3,300 D 1,400<br>E 1,600 E 800   |
|            |   | April<br>19 (Fri) 7:30pm<br>20 (Sat) 2:00pm | Christoph Eschenbach, conductor  |  |
|            |   | NHK Hall                                    |  |  |
| 2024<br>05 | A | Concert No. <b>2010</b>                     | <b>Panfilii</b> <i>Abitare la battaglia</i> [Japan Premiere]<br><b>Respighi</b> <i>Pini di Roma</i> , symphonic poem ( <i>Pines of Rome</i> )<br><b>Respighi</b> <i>Fontane di Roma</i> , symphonic poem ( <i>Fountains of Rome</i> )<br><b>Respighi</b> <i>Feste Romane</i> , symphonic poem ( <i>Roman Festivals</i> ) | Ordinary Youth<br>S 9,800 S 4,500<br>A 8,400 A 4,000<br>B 6,700 B 3,300<br>C 5,400 C 2,500<br>D 4,400 D 1,800<br>E 2,800 E 1,400 |
|            |   | May<br>11 (Sat) 6:00pm<br>12 (Sun) 2:00pm   | Fabio Luisi, conductor<br>*Program order of the concert has changed from initially announced.  |  |
|            |   | NHK Hall                                    |  |  |
| 2024<br>05 | B | Concert No. <b>2012</b>                     | <b>Brahms</b> Piano Concerto No. 1 D Minor Op. 15<br><b>Nielsen</b> Symphony No. 2 B Minor Op. 16, <i>The 4 Temperaments</i>   | Ordinary Youth<br>S 9,800 S 4,500<br>A 8,400 A 4,000<br>B 6,700 B 3,300<br>C 5,400 C 2,500<br>D 4,400 D 1,800                    |
|            |   | May<br>22 (Wed) 7:00pm<br>23 (Thu) 7:00pm   | Fabio Luisi, conductor<br>Rudolf Buchbinder, piano   |  |
|            |   | Suntory Hall                                |  |  |
| 2024<br>05 | C | Concert No. <b>2011</b>                     | <b>Mendelssohn</b> <i>A Midsummer Night's Dream</i><br>—Overture, Nocturne, Scherzo, Wedding March<br><b>Mendelssohn</b> Symphony No. 5 D Minor Op. 107, <i>Reformation</i>  | Ordinary Youth<br>S 7,600 S 3,500<br>A 6,700 A 3,000<br>B 5,300 B 2,400<br>C 4,300 C 1,900<br>D 3,300 D 1,400<br>E 1,600 E 800   |
|            |   | May<br>17 (Fri) 7:30pm<br>18 (Sat) 2:00pm   | Fabio Luisi, conductor   |  |
|            |   | NHK Hall                                    |  |  |
| 2024<br>06 | A | Concert No. <b>2013</b>                     | <b>Scriabin</b> <i>Rêverie</i> , Op. 24<br><b>Scriabin</b> Piano Concerto F-sharp Minor Op. 20<br><b>Scriabin</b> Symphony No. 2 C Minor Op. 29  | Ordinary Youth<br>S 9,100 S 4,000<br>A 7,600 A 3,500<br>B 5,900 B 2,800<br>C 4,800 C 2,100<br>D 3,800 D 1,500<br>E 2,000 E 1,000 |
|            |   | June<br>8 (Sat) 6:00pm<br>9 (Sun) 2:00pm    | Keitaro Harada, conductor<br>Kyohei Sorita, piano  |  |
|            |   | NHK Hall                                    |  |  |
| 2024<br>06 | B | Concert No. <b>2015</b>                     | <b>Webern</b> Passacaglia Op. 1<br><b>Schönberg</b> Violin Concerto Op. 36<br><b>J. S. Bach / Webern</b> Ricercata<br><b>Schubert</b> Symphony No. 5 B-flat Major D. 485   | Ordinary Youth<br>S 9,800 S 4,500<br>A 8,400 A 4,000<br>B 6,700 B 3,300<br>C 5,400 C 2,500<br>D 4,400 D 1,800                    |
|            |   | June<br>19 (Wed) 7:00pm<br>20 (Thu) 7:00pm  | Masato Suzuki, conductor<br>Isabelle Faust, violin   |  |
|            |   | Suntory Hall                                |  |  |
| 2024<br>06 | C | Concert No. <b>2014</b>                     | <b>Ibert</b> <i>Escales (Ports of Call)</i><br><b>Ravel</b> Piano Concerto for the Left Hand<br><b>Debussy</b> <i>Nocturnes</i> *  | Ordinary Youth<br>S 7,600 S 3,500<br>A 6,700 A 3,000<br>B 5,300 B 2,400<br>C 4,300 C 1,900<br>D 3,300 D 1,400<br>E 1,600 E 800   |
|            |   | June<br>14 (Fri) 7:30pm<br>15 (Sat) 2:00pm  | Nodoka Okisawa, conductor<br>Denis Kozhukhin, piano<br>The Philharmonic Chorus of Tokyo, female chorus*  |  |
|            |   | NHK Hall                                    |  |  |

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

(consumption tax included)

# The Subscription Concerts Program 2024–25

2024  
09

|   |  |  |
|---|--|--|
| A | Concert No. <b>2016</b>                                | <b>The 200th Anniversary of Anton Bruckner's Birth</b><br><b>Bruckner</b> Symphony No. 8 C Minor (First Version/1887)  |
|   | <b>September</b><br>14 (Sat) 6:00pm<br>15 (Sun) 2:00pm |  |
|   | NHK Hall   | Fabio Luisi, conductor   |
| B | Concert No. <b>2017</b>                                | <b>Schubert</b> <i>Overture in the Italian Style</i> No. 2 C Major D. 591<br><b>Schumann</b> Piano Concerto A Minor Op. 54<br><b>Beethoven</b> Symphony No. 7 A Major Op. 92 |
|   | <b>September</b><br>19 (Thu) 7:00pm<br>20 (Fri) 7:00pm |  |
|   | Suntory Hall   | Fabio Luisi, conductor<br>Hélène Grimaud, piano  |
| C | Concert No. <b>2018</b>                                | <b>Tchaikovsky</b> <i>Variation on a Rococo Theme</i> , Op. 33 (Edited by Fitzenhagen)*<br><b>Tchaikovsky</b> <i>The Swan Lake</i> , ballet Op. 20 (Excerpts)                |
|   | <b>September</b><br>27 (Fri) 7:00pm<br>28 (Sat) 2:00pm |  |
|   | NHK Hall   | Tadaaki Otaka, conductor<br>Rei Tsujimoto (Principal Cello, NHKSO), cello*   |

2024  
10

|   |  |  |
|---|--|--|
| A | Concert No. <b>2020</b>                              | <b>Honegger</b> Symphony No. 3, <i>Liturgique</i><br><b>Brahms</b> Symphony No. 4 E Minor Op. 98   |
|   | <b>October</b><br>19 (Sat) 6:00pm<br>20 (Sun) 2:00pm |  |
|   | NHK Hall   | Herbert Blomstedt, conductor   |
| B | Concert No. <b>2019</b>                              | <b>Sibelius</b> <i>4 Legends</i> , sym. poem— <i>The Swan of Tuonela</i><br><b>Nielsen</b> Clarinet Concerto Op. 57<br><b>Berwald</b> Symphony No. 4 E-flat Major, <i>Sinfonia naïve</i> |
|   | <b>October</b><br>10 (Thu) 7:00pm<br>11 (Fri) 7:00pm |  |
|   | Suntory Hall   | Herbert Blomstedt, conductor<br>Kei Ito (Principal Clarinet, NHKSO), clarinet  |
| C | Concert No. <b>2021</b>                              | <b>Schubert</b> Symphony No. 7 B Minor D. 759, <i>Unvollendete (Unfinished Symphony)</i><br><b>Schubert</b> Symphony No. 8 C Major D. 944, <i>Große (The Great)</i>                      |
|   | <b>October</b><br>25 (Fri) 7:00pm<br>26 (Sat) 2:00pm |  |
|   | NHK Hall   | Herbert Blomstedt, conductor   |

2024  
11

|   |   |   |
|---|---|---|
| A | Concert No. <b>2022</b>                               | <b>Roussel</b> <i>Bacchus et Ariane</i> , ballet Op. 43—Suite No. 1<br>( <i>Bacchus and Ariadne</i> )<br><b>Bartók</b> Piano Concerto No. 3<br><b>Ravel</b> <i>Valses nobles et sentimentales (Noble and Sentimental Waltzes)</i><br><b>Debussy</b> <i>Images pour orchestre—Ibéria (Images for Orchestra—Iberia)</i> |
|   | <b>November</b><br>9 (Sat) 6:00pm<br>10 (Sun) 2:00pm  |   |
|   | NHK Hall  | Kazuki Yamada, conductor Francesco Piemontesi, piano  |
| B | Concert No. <b>2024</b>                               | <b>Tchaikovsky</b> Violin Concert D Major Op. 35<br><b>Prokofiev</b> <i>The Tale of Stone Flower</i> , ballet<br>— <i>The Mistress of the Copper Mountain, Wedding Suite</i><br><b>Stravinsky</b> <i>Symphony in Three Movements</i>  |
|   | <b>November</b><br>21 (Thu) 7:00pm<br>22 (Fri) 7:00pm |   |
|   | Suntory Hall  | Dima Slobodeniouk, conductor<br>Nikita Boriso-Glebsky, violin   |
| C | Concert No. <b>2023</b>                               | <b>Wagner</b> <i>Tannhäuser</i> , opera—Overture<br><b>Weinberg</b> Trumpet Concerto B-flat Major Op. 94<br><b>Shostakovich</b> Symphony No. 5 D Minor Op. 47   |
|   | <b>November</b><br>15 (Fri) 7:00pm<br>16 (Sat) 2:00pm |   |
|   | NHK Hall  | Andrés Orozco-Estrada, conductor<br>Reinhold Friedrich, trumpet   |

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.



**A NHK Hall**  
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)  
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

**B Suntory Hall**  
Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)  
Fri. 7:00pm (doors open at 6:20pm)

**C NHK Hall**  
Fri. 7:00pm (doors open at 6:00pm)  
Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2024  
12

**A** Concert No. 2025  
**Nov. 30** (Sat) 6:00pm  
**Dec. 1** (Sun) 2:00pm  
— The 1st day concert of the December subscription Program A will be held in November.  
NHK Hall

**The 150th Anniversary of Arnold Schönberg's Brith**  
**Wagner** *Tristan und Isolde* (*Tristan and Isolde*)—*Prelude and Liebestod*  
**R. Strauss** *Das Rosenband* Op. 36-1 (*The Rose Chain*)\*  
**R. Strauss** *Freundliche Vision* Op. 48-1 (*A Welcome Vision*)\*  
**R. Strauss** *Waldseligkeit* Op. 49-1 (*Bliss in the Woods*)\*  
**R. Strauss** *Befreit* Op. 39-4 (*Released*)\*  
**R. Strauss** *Morgen* Op. 27-4 (*Tomorrow*)\*  
**Schönberg** *Pelleas und Melisande* Op. 5 (*Pelléas and Mélisande*)  
Fabio Luisi, conductor Christiane Karg, soprano\*

**B** Concert No. 2026  
**December**  
**5** (Thu) 7:00pm  
**6** (Fri) 7:00pm  
Suntory Hall

**Smetana** *The Bartered Bride*, opera—*Overture*  
**Rakhmaninov** Piano Concerto No. 3 D Minor Op. 30  
**Mussorgsky / Ravel** *Pictures at an Exhibition*, suite  
Fabio Luisi, conductor  
Nelson Goerner, piano

**C** Concert No. 2027  
**December**  
**13** (Fri) 7:00pm  
**14** (Sat) 2:00pm  
NHK Hall

**Liszt** *Tasso: lamento e trionfo*, sym. poem (*Tasso: Lament and Triumph*)  
**Liszt** *Eine Faust-Symphonie in drei Charakterbildern*  
(*A Faust Symphony in Three Character Pictures*)\*  
Fabio Luisi, conductor  
Jamez McCorkle, tenor\* Tokyo Opera Singers, chorus\*

2025  
01

**A** Concert No. 2028  
**January**  
**18** (Sat) 6:00pm  
**19** (Sun) 2:00pm  
NHK Hall

**Shostakovich** Symphony No. 7 C Major Op. 60, *Leningrad*  
Tugan Sokhiev, conductor

**B** Concert No. 2030  
**January**  
**30** (Thu) 7:00pm  
**31** (Fri) 7:00pm  
Suntory Hall

**Mussorgsky / Liadov** *The Fair at Sorochyntsi*, opera—*Introduction, Gopak*  
**Bartók** Violin Concerto No. 2  
**Dvořák** Symphony No. 8 G Major Op. 88  
Tugan Sokhiev, conductor  
Sunao Goko (Guest Concertmaster, NHKSO), violin

**C** Concert No. 2029  
**January**  
**24** (Fri) 7:00pm  
**25** (Sat) 2:00pm  
NHK Hall

**Stravinsky** *Pulcinella*, ballet  
**Brahms** Symphony No. 1 C Minor Op. 68  
Tugan Sokhiev, conductor

2025  
02

**A** Concert No. 2031  
**February**  
**8** (Sat) 6:00pm  
**9** (Sun) 2:00pm  
NHK Hall

**Zemlinsky** *Sinfonietta*, Op. 23  
**R. Strauss** Horn Concerto No. 1 E-flat Major Op. 11  
**Dvořák** *The Wild Dove*, sym. poem Op. 110  
**Janáček** *Sinfonietta*  
Petr Popelka, conductor  
Radek Baborák, horn

**B** Concert No. 2032  
**February**  
**13** (Thu) 7:00pm  
**14** (Fri) 7:00pm  
Suntory Hall

**Mozart** *Vado, ma dove?*, aria K. 583\*  
**Mozart** *Alma grande e nobil core*, aria K. 578\*  
**Mozart** Symphony No. 25 G Minor K. 183  
**Mozart** *Bella mia fiamma, addio—Resta, oh cara*, recitative and aria K. 528\*  
**Schumann** Symphony No. 1 B-flat Major Op. 38  
Petr Popelka, conductor Ema Nikolovska, soprano\*

**C** Concert No. 2033  
**February**  
**21** (Fri) 7:00pm  
**22** (Sat) 2:00pm  
NHK Hall

**Suppè** *Leichte Kavallerie*, operetta—*Overture* (*Light Cavalry*)  
**Saint-Saëns** Violin Concerto No. 3 B Minor Op. 61  
**Suppè** *Dichter und Bauer*, overture (*Poet and Peasant*)  
**Offenbach / Rosenthal** *Gaité Parisienne*, ballet (*Parisian Gaiety*) (Excerpts)  
Tatsuya Shimono, conductor  
Fumiaki Miura, violin

2025  
04

A

Concert No. 2034

April

12 (Sat) 6:00pm

13 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

**Berlioz** *Harold en Italie*, symphony (*Harold in Italy*)\*  
**Prokofiev** Symphony No. 4 C Major Op. 112 (Revised Version / 1947)

Paavo Järvi, conductor  
Antoine Tamestit, viola\*

B

Concert No. 2035

April

17 (Thu) 7:00pm

18 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

**Stravinsky** *Petrushka*, ballet (Complete, 1947 Version)  
**Britten** Piano Concerto Op. 13  
**Prokofiev** *The Love for Three Oranges*, symphonic suite Op. 33bis

Paavo Järvi, conductor  
Benjamin Grosvenor, piano

C

**There will be no subscription concerts of program C in April due to the orchestra's European tour.**

2025  
05

A

Concert No. 2036

April

26 (Sat) 6:00pm

27 (Sun) 2:00pm

– Program A of the May subscription concerts will be held in April.

NHK Hall

**Mahler** Symphony No. 3 D Minor

Fabio Luisi, conductor  
Olesya Petrova, mezzo soprano  
Tokyo Opera Singers, female chorus  
NHK Tokyo Children Chorus, children chorus

B

Concert No. 2037

May

1 (Thu) 7:00pm

2 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

**Berg** Violin Concerto  
**Mahler** Symphony No. 4 G Major\*

Fabio Luisi, conductor  
Akiko Suwanai, violin  
Maki Mori, soprano\*

C

Concert No. 2038

May

30 (Fri) 7:00pm

31 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

**Schubert** *Rosamunde*, overture  
**Dohnányi** *Variations on a Nursery Tune*, Op. 25\*  
**R. Strauss** Symphonic Fantasy from *Die Frau ohne Schatten* (*The Woman without a Shadow*)  
**R. Strauss** Suite from *Der Rosenkavalier* (*The Rose-Bearer*)

Giedrė Šlekytė, conductor  
Mao Fujita, piano\*

2025  
06

A

Concert No. 2039

June

7 (Sat) 6:00pm

8 (Sun) 2:00pm

NHK Hall

**Rimsky-Korsakov** *May Night*, opera—Overture  
**Rakhmaninov** *Rhapsody on a Theme of Paganini*, Op. 43\*  
**Tchaikovsky** Symphony No. 6 B Minor Op. 74, *Pathétique*

Vladimir Fedoseyev, conductor  
Yulianna Avdeeva, piano\*

B

Concert No. 2040

June

12 (Thu) 7:00pm

13 (Fri) 7:00pm

Suntory Hall

**Ibert** Flute Concerto  
**Bruckner** Symphony No. 6 A Major

Juanjo Mena, conductor  
Karl-Heinz Schütz, flute

C

Concert No. 2041

June

20 (Fri) 7:00pm

21 (Sat) 2:00pm

NHK Hall

**Korngold** Violin Concerto D Major Op. 35  
**Mahler** Symphony No. 1 D Major, *Titan*

Tarmo Peltokoski, conductor  
Daniel Lozakovich, violin

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

## N響関連のお知らせ

いつでもどこでも、NHKの番組を。

# NHK+



利用登録はこちらから

<https://plus.nhk.jp/info/>

総合・Eテレの番組を

スマホやタブレット・  
パソコン・テレビ<sup>※1</sup>で

放送から1週間<sup>※2</sup> 何度でも

お楽しみいただけます！

※1 テレビでは見逃し番組配信のみ

※2 地域によって一部は放送2週間配信

アプリで便利に！

メールアドレスとパスワードを入力するだけで  
すぐに見逃し配信をご覧いただけます

※ 放送権借契約のある世帯の方が追加のご負担なく利用できるサービスです

## スマホやPCでNHKラジオが楽しめる！

### NHK ラジオ らじる★らじる

スマートフォンやパソコンでラジオ第1(R1)・ラジオ第2(R2)・NHK-FMの放送をリアルタイムで聴くことができます。スマートフォンならアプリでもお楽しみいただけます。 <http://www.nhk.or.jp/radio>

放送が終わっても  
楽しめる！

## 聴き逃し

放送終了後1週間 /  
聴き逃し対象番組のみ



スマートフォン用アプリはこちらから

## 伝えるチカラ

# NHK財団

- ◎ 公共メディアNHKを社会へ
- ◎ 社会貢献事業で、次世代の未来を応援！

2023年4月、NHKグループの4つの一般財団法人が合併して、NHK財団が発足しました。子法人の公益財団法人「NHK交響楽団」と共に、事業を進めていきます。

ステラ  
net



NHK財団の最新情報ははこちらから

# N響の社会貢献

音楽は人々を元気づけ、ひとときの安らぎを与えてくれます。

N響はコンサートホールを飛び出して、さまざまな場所、さまざまな人たちに美しい音色をお届けし、広く社会に貢献していきます。

## 子どもたちの未来を育む

「N響が学校にやってきた」をキャッチフレーズにNHKと共催し、楽員たちが全国の小中学校を訪ねてミニコンサートを開く「NHKこども音楽クラブ」、クラシックの名曲を集めて毎年夏休みに開いている子どもと大人がともに楽しめるコンサート「N響ほっとコンサート」、N響の練習所に地元の保育園児を招いて楽器の音色を楽しんでいただく「N響といっしょ! 音を楽しむ!!」などを開催しています。また、小中学校と協力し、子どもたちが創作と演奏をN響メンバーと一緒に体験するワークショップに取り組むなど、新たな音楽教育プログラムの開発にも力を入れています。

## 優れた音楽家を育てる

1950年代に「指揮研究員」制度を設置し、有望な若手指揮者をオーケストラの現場に迎え入れ、国内外の巨匠たちとの音楽づくりに携わる機会を提供してきました。この場から故・外山雄三氏、故・岩城宏之氏、故・若杉弘氏、そして現在のN響正指揮者・尾高忠明をはじめ、日本のクラシック音楽界を担う人材を数多く輩出しています。また2003年にはオーケストラ楽員の人材育成を目的に「N響アカデミー」を創設。オーディションで選抜された受講生が、楽員からのレッスン、リハーサルや公演の参加などを通じてトレーニングを積み、修了生はN響をはじめ国内外のオーケストラで活躍しています。

### 指揮研究員

平石章人、湯川紘恵

### N響アカデミー在籍者

ヴァイオリン：下野園ひな子、遠井彩花、中井楓梨、

山本大心 ヴィオラ：和田志織 チェロ：渡邊ゆかり  
コントラバス：桑原孝太朗 クラリネット：浦畑尚吾  
トランペット：藤井虹太郎

(2024年2月1日現在)

## 病院や福祉施設、被災地に届ける

病院や高齢者施設を楽員が訪れてミニコンサートを開き、入院する患者さん、看病するご家族、お年寄りの方たちに安らぎのひと時をお届けしています。また被災地にも出向き、演奏を通じての現地の人たちの応援にも力を入れてきました。

## 国際交流の輪を広げる

首都圏の大学と連携して外国人留学生を公演に招待しているほか、演奏指導などを通じてベトナム国立交響楽団との交流を重ねています。音楽は世界の架け橋です。演奏を通じた絆が世界中に広がることを願っています。

## 大学や専門家と連携する

コロナ禍では業界団体によって行われた演奏中の飛沫を調べる実験に多くの楽員、職員を派遣して協力。この実験を通じ、舞台上の安全な楽器の配置などがわかり、業界の統一したマニュアル作りに役立ちました。2021年からは東京工科大学の授業の一環に協力してN響コンサートのYouTube配信を実現。メディア学部の学生たちが撮影、編集を担当し、NHK出身の職員らの指導を受けてプロ顔負けの作品に仕上げました。N響はこれからも異なる分野の人たちと手をたざえ、デジタル活用など新しい課題に取り組みます。

# 役員等・団友

## 役員等

|      |  |
|------|--|
| 理事長  | 今村啓一   |
| 常務理事 | 中野谷公一 三溝敬志   |
| 理事   | 相川直樹 内永ゆかり 岡田知之 笠原裕之 杉山博孝 銭谷真美 團 宏明 毛利 衛                               |
| 監事   | 浜村和則 江口貴之  |
| 評議員  | 稲葉延雄 江頭敏明 樺山紘一 熊埜御堂 朋子 清野 智 田中宏暁 檀 ふみ 坪井節子<br>前田昭雄 松居 匡 三浦 惺 山名啓雄 渡辺 修 |

## 事務局

| 演奏制作部           | 企画プロモーション部 | 経営管理部      | 技術主幹 |
|-----------------|------------|------------|------|
| 岩渕一真 沖 あかね 黒川大亮 | 田内誠人       | 野村 歩 姫野 恵  | 尾澤 勉 |
| 山田大祐 内山弥生 上原 静  | 猪股正幸       | 浅田武志 杉山真知子 | 芸術主幹 |
| 石井 康 徳永匡哉 木村英代  | 吉賀亜希       | 山本能寛       | 西川彰一 |
| 利光敦司 高橋 啓       | 三浦七菜子      | 吉田麻子       |      |
| 高木かおり 宮崎則匡      |            | 目黒重治       |      |

## 団友

|                 |        |        |        |       |       |
|-----------------|--------|--------|--------|-------|-------|
| 田中 裕            | チェロ    | オーボエ   | トランペット | 瀬戸川 正 | 事務局   |
| 鶴我裕子            |        |        |        | 百瀬和紀  |       |
| 徳永二男            | 岩井雅音   | 青山聖樹   | 井川明彦   |       | 稲川 洋  |
| 中瀬裕道            | 木越 洋   | 北島 章   | 北村源三   | ピアノ   | 入江哲之  |
| 名響コンサート<br>マスター | 永峰高志   | 浜 道晃   | 来馬 賢   |       | 金沢 孝  |
| 堀 正文            | 根津昭義   | 茂木大輔   | 関山幸弘   | 本荘玲子  | 北見佳織  |
| 堀 伝             | 銅銀久弥   |        | 津堅直弘   |       | 小林文行  |
| 堀江 悟            | 丹羽経彦   | クラリネット | 栃本浩規   | 理事長   | 清水永一郎 |
| 前澤 淨            | 平野秀清   |        | 福井 功   |       | 関 照枝  |
| ヴァイオリン          | 宮里親弘   | 磯部周平   | 佛坂咲千生  | 曾我 健  | 中馬 究  |
| 板橋 健            | 武藤伸二   | 加藤明久   |        | 田畑和宏  | 出口修平  |
| 梅澤美保子           | 村上和邦   | 横川晴児   | トロンボーン | 野島直樹  | 西村集介  |
| 海野義雄            | 山口裕之   |        |        | 日向英実  | 芳賀由明  |
| 大澤 浄            | 蓬田清重   | ファゴット  | 伊藤 清   | 木田幸紀  | 松崎ユリ  |
| 大林修子            |        |        | 神谷 敏   | 森 茂雄  | 宮戸一男  |
| 大松八路            | コントラバス | 岡崎耕治   | 栗田雅勝   | 今井 環  | 諸岡 淳  |
| 金田幸男            | 井戸田善之  | 霧生吉秀   | 関根五郎   | 根本佳則  | 吉田博志  |
| 川上朋子            | 志賀信雄   |        | 三輪純生   | 役員    | 渡辺 克  |
| 川上久雄            | 田中雅彦   | ホルン    |        |       | 渡辺克己  |
| 窪田茂夫            | 中 博昭   |        |        | テューバ  |       |
| 黒柳紀明            | 佐川裕昭   | 大野良雄   |        |       | 加納民夫  |
| 公門俊之            | 新納益夫   | 田村 宏   |        |       | 唐木田信也 |
| 齋藤真知恵           |        | 中島大之   |        |       | 斉藤 滋  |
| 酒井敏彦            | フルート   | 樋口哲生   |        |       | 関川精二  |
| 清水謙二            | 菅原 潤   | 松崎 裕   |        |       | 鳴嶋郁夫  |
| 鈴木弘一            | 細川順三   | 山田桂三   | 打楽器    |       | 原 武   |
| 武内智子            | 村山 弘   | 山本 真   | 有賀誠門   |       | 山崎大樹  |
| 田淵 彰            | 渡部啓三   |        | 岡田知之   |       |       |

フィルハーモニー2024年2月号 | 第96巻 第2号

2024年2月1日発行 ISSN 1344-5693

## 公益財団法人NHK交響楽団

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49

TEL: (03) 5793-8111 / FAX: (03) 3443-0278

発行人◎三溝敬志 / 編集人◎猪股正幸

企画・編集: (一) 財団NHK

取材・編集: (株)アルテスパブリッシング

表紙・本文デザイン: 寺井恵司

印刷: 佐川印刷株式会社

©無断転載・複製を禁ず

# ME NO ME SINCE 1977 目の眼



2月号 発売中 | 1,650円税込

特集 正宗の風  
相州伝のはじまり



[menomeonline.com](http://menomeonline.com)

公式ホームページリニューアル

骨董・古美術の楽しみをウェブでもお届けしています



株式会社 目の眼 info@menomeonline.com

東京春祭

20<sup>th</sup>  
Spring Festival in Tokyo

指揮: マレク・ヤノフスキ  
Conductor: Marek Janowski

トリスタン: スチュアート・スケルトン  
Tristan: Stuart Skelton

マルケ王: フランツ・ヨゼフ・ゼーリヒ  
König Marke: Franz-Josef Selig

イゾルデ: ビルギッテ・クリステンセン  
Isolde: Birgitte Christensen

クルヴェナール: マルクス・アイヒェ  
Kurvenal: Markus Eiche

メロート: 甲斐栄次郎  
Melot: Eijiro Kai

ブランゲネ: ルクサンドラ・ドノーセ  
Brangäne: Ruxandra Donose

牧童: 大槻孝志  
Ein Hirt: Takashi Otsuki

舵取り: 高橋洋介  
Ein Steuermann: Yosuke Takahashi

若い水夫の声: 金山京介  
Stimme eines jungen Seemanns: Kyosuke Kanayama

管弦楽: NHK交響楽団  
Orchestra: NHK Symphony Orchestra, Tokyo

合唱: 東京オペラシンガーズ  
Chorus: Tokyo Opera Singers

音楽コーチ: トーマス・ラウスマン  
Musical Preparation: Thomas Lausmann



Marek Janowski © Felix Broede

(演奏会形式 / 字幕付)

全3幕 上演時間: 約5時間 (休憩2回含む)

東京春祭ワーグナー・シリーズ vol.15

# トリスタンとイゾルデ

2024

3.27 [水] 15:00 3.30 [土] 15:00

March 27 [Wed.] 15:00 / March 30 [Sat.] 15:00

東京文化会館 大ホール

Tokyo Bunka Kaikan, Main Hall

S ¥26,500 A ¥22,000 B ¥18,000

C ¥14,500 D ¥11,500 E ¥8,500 U-25 ¥3,000

※U-25は2月15日[木] 12:00発売 (音楽祭公式サイト限定取扱)

主催: 東京・春・音楽祭実行委員会 共催: NHK交響楽団 後援: ドイツ連邦共和国大使館、日本ワーグナー協会  
助成: 公益社団法人企業メセナ協議会 社会創造アーツファンド

チケットの申込み

東京・春・音楽祭オンライン・チケットサービス

[www.tokyo-harusai.com](http://www.tokyo-harusai.com)

(座席選択可・登録無料)

チケットぴあ <https://w.pia.jp/t/harusai/>

東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650

N響ガイド 0570-02-9502

WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp/>

M.ヤノフスキ指揮 ワグナー「ニーベルングの指環」ガラコンサート  
4.7[日]15:00 東京文化会館)も好評発売中

公演に関するお問合せ 東京・春・音楽祭サポートデスク

050-3496-0202 (月・水・金 10:00-15:00)





特別ゲスト：高橋英樹



ゲスト：坂田晃一



ナビゲーター：山田美也子

指揮：キンポー・インイ  
ヴァイオリン：三浦文彰\*  
管弦楽：NHK交響楽団

本家本元が贈る大河ドラマ・テーマ曲集

# N響音

# 大河ドラマ

## & 名曲コンサート

Taiga Drama & Masterpiece Concert

2024年3月9日[土] 4:00pm  
東京芸術劇場 コンサートホール

(池袋駅西口 徒歩2分) 2時間程度の公演です

発売開始日 2023年11月28日[火] 10:00am (一般発売)  
2023年11月22日[水] 10:00am (定期会員先行発売)

料金 全て税込 / 全席指定

|                | S席     | A席     | B席     | C席     |
|----------------|--------|--------|--------|--------|
| 一般             | ¥9,000 | ¥8,000 | ¥7,000 | ¥6,000 |
| ユースチケット(25歳以下) | ¥4,500 | ¥4,000 | ¥3,500 | ¥3,000 |

(定期会員は一般料金から10%割引)

前売所

WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp>

N響ガイド 0570-02-9502

東京芸術劇場ボックスオフィス 0570-010-296 [www.geigeki.jp/t/](http://www.geigeki.jp/t/)

チケットぴあ [pia.jp/t/nhkso](http://pia.jp/t/nhkso)

e+(イープラス) [eplus.jp/nhkso](http://eplus.jp/nhkso)

ローソンチケット [l-tike.com/nhkso](http://l-tike.com/nhkso)

主催：NHK交響楽団 後援：豊島区

- 曲目
- [第1部 大河ドラマ編]
- 黄金の日日 (1978/池辺晋一郎)  
どうする家康 (2023/稲本響)  
春の坂道 (1971/三善晃)  
国盗り物語 (1973/林光)  
花神 (1977/林光)  
山河燃ゆ (1984/林光)  
おんな太閤記 (1981/坂田晃一)  
いのち (1986/坂田晃一)  
真田丸 (2016/服部隆之)\*  
光る君へ (2024/冬野ユミ)
- [第2部「河」「川」にちなんだクラシック名曲選]
- 「四季」—「春」(ヴィヴァルディ)\*  
交響詩「モルダウ」(スメタナ)  
ワルツ「美しく青きドナウ」  
(J.シュトラウス II世)

©白土吉枝

©Yuji Hori

\*ユースチケット(25歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。

初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。

詳細はN響ホームページをご覧ください。

\*定期会員割引：先行発売のお取り扱いにはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。

\*車いす席についてはN響ガイドにお問い合わせください。

\*N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。

\*未成年者のご入場は断りしています。

\*やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。

公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

\*公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

お問い合わせ：N響ガイド 0570-02-9502

営業時間：10:00am～5:00pm (休休日：土・日・祝日)

Follow us on



[nhkso.or.jp](http://nhkso.or.jp)





# 脱炭素の道へ。 水素とLPガスが加速する。



2050年、温暖化ガス排出実質ゼロ社会の実現を目指して。

イワタニはLPガス・**Maruigas**の全国330万世帯以上の販売ネットワークを活かし、脱炭素の主役となる水素を暮らしと産業にお届けする準備を進めています。

さらに、環境への負荷を減らすために、水素やアンモニアを混合した低炭素なLPガスの開発をはじめ、廃プラスチックやバイオガス由来の水素やLPガス製造、新しいLPガス合成技術などを推進。

私たちは、水素とLPガスで確かな答えを持つ

クリーンエネルギーのトップランナーとして走り続けます。

## 水素&LPガスシェアNo.1\*

\*国内における販売シェア(ただし、水素はオンサイト・パイピングを除く。2023年5月現在、自社調べ)

## Iwatani

岩谷産業株式会社